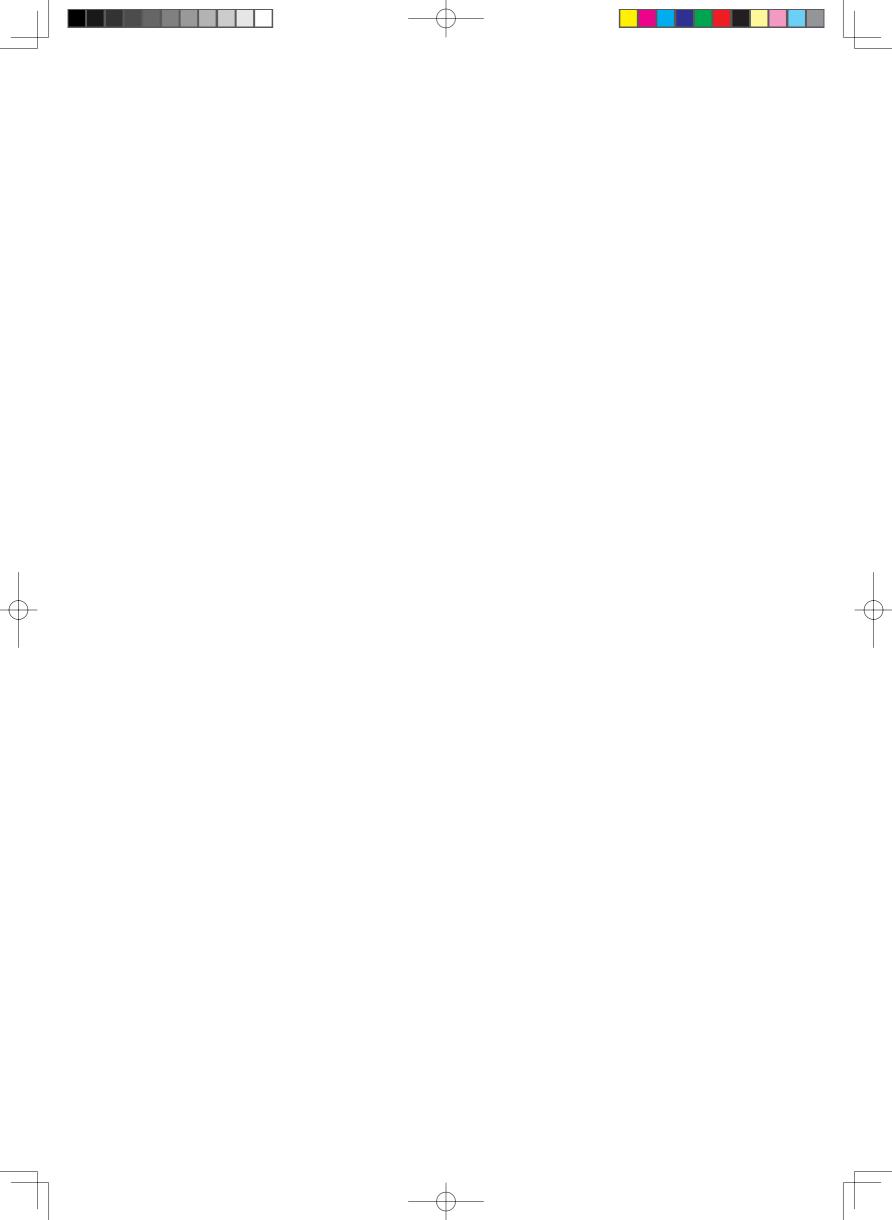
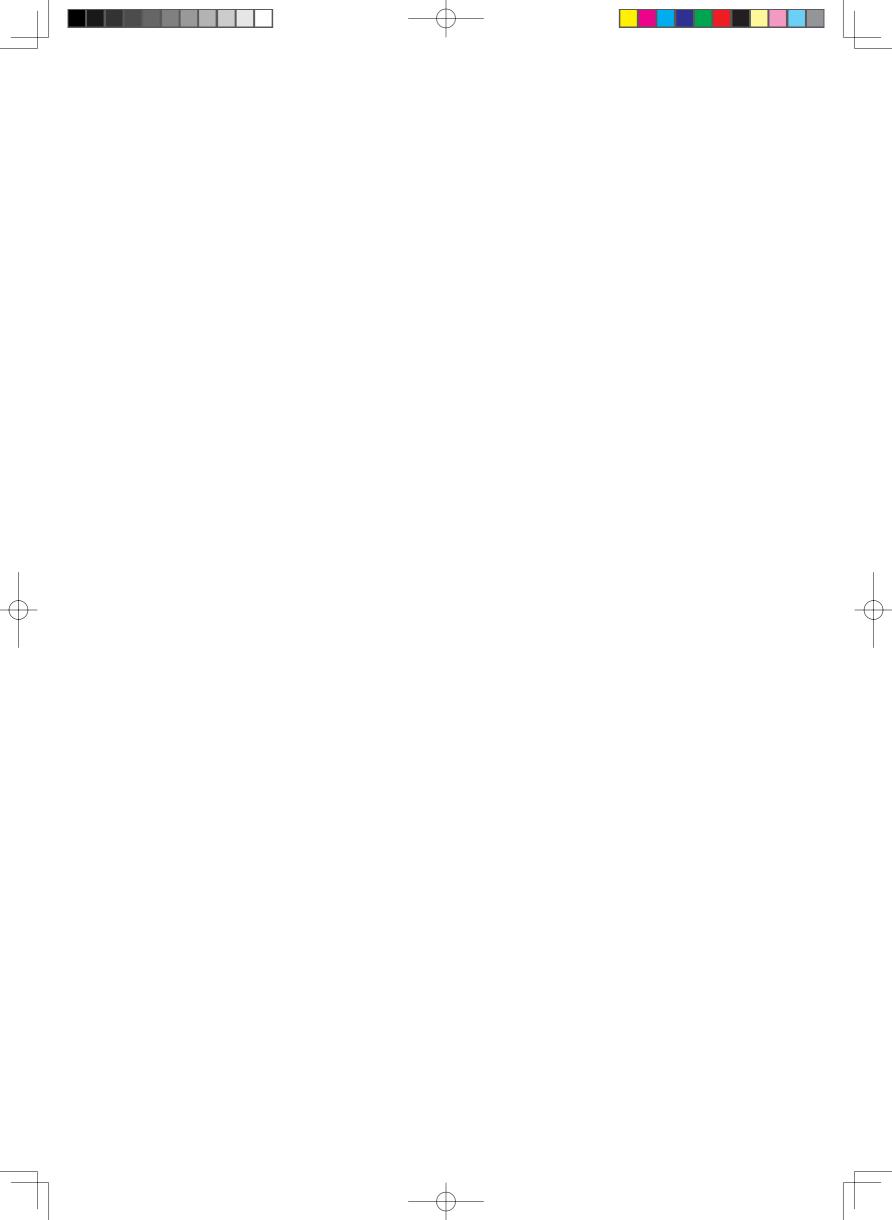
元総社蒼海遺跡群(30)

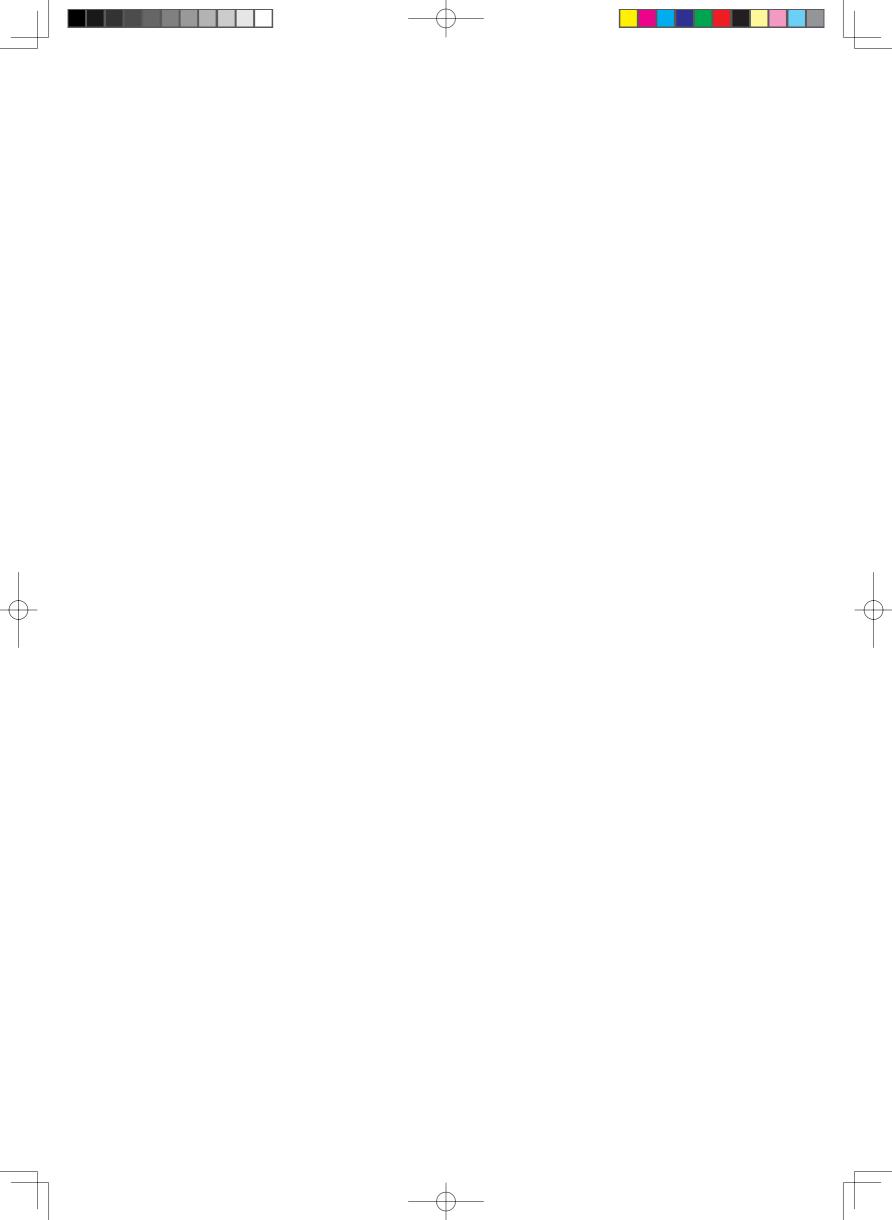
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 0. 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

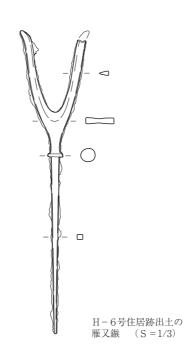






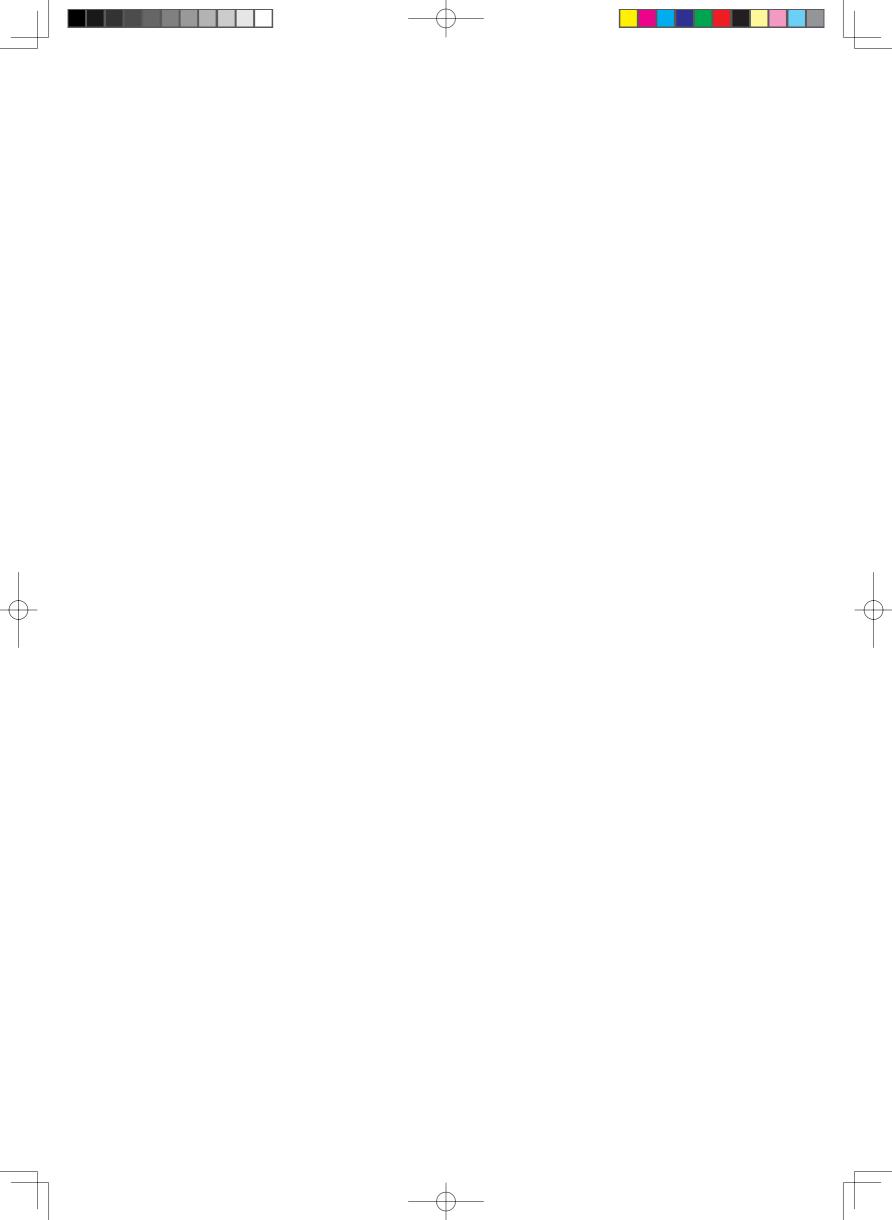
元総社蒼海遺跡群(30)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書



2 0 1 0. 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団





元総社蒼海遺跡群 (30) 調査区全景 (南西から)



A-1号道路状遺構全景(南から)



W-1号溝全景(東から)

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期 古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中 心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、 国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、 近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩 橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群(30) は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。 今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、古墳、平安時代の竪穴住居跡、中世の堀跡等を検出しました。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現で きるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、 地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成 22 年 3 月

例 言

- 1 本報告書は前橋市都市計画事業元総社土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群(30)発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査の要項は次のとおりである

遺跡名 元総社蒼海遺跡群 (30)

調査主体者 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 戸塚良明

調査場所 群馬県前橋市総社町総社 3095 - 8 ほか

遺跡コード 21 A 130 - 30

発掘調査期間 平成 21 年 11 月 12 日~平成 21 年 12 月 8 日 整理・報告書作成期間 平成 21 年 12 月 9 日~平成 22 年 3 月 11 日

- 3 本書の編集は佐野が行った。原稿執筆は I を神宮 聡 (前橋市教育委員会)、他を佐野が担当した。
- 4 本書はデジタル編集・組版により作成し、その作業は前田和昭(技研測量設計株式会社)が担当した。
- 4 報告書作成にあたり、人骨の鑑定については宮崎重雄氏のご助言を賜った。記して謝意を表します。
- 5 発掘調査及び整理作業参加者は次のとおりである。

大川明子 中村岳彦 山田誠司 桃薗正志 (以上、技研測量設計株式会社調査員)

飯塚常子 石川輝子 今井美智子 内島勝義 遠藤逸子 大川悦子 岡野 茂 女屋みどり 木村広美 木暮孝一 小嶋八重子 佐藤和彦 佐藤文江 佐藤百合子 四宮昭俊 下田順子 須藤香織 高橋一巳 高山 愛 瀧澤佳子 武井綾子 竹澤賢司 田部井美砂子 鳥山浪江 長田友香 西潟 登 平野ミツ子 福島禄子 星野光雄 堀越晴子 本多和子 間庭啓治 三原一重 矢内司郎 矢内ヒロ子 山下雅恵 湯浅澄子 横沢百合子 吉田文江 (以上、作業員・整理補助員)

- 6 本調査における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。
- 7 下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します(順不同、敬称略)。

有山径世 瀬田哲夫 日沖剛史 水谷貴之 山下工業株式会社

月. 例

- 1 挿図中に使用した北は座標北である。
- 2 挿図に国土地理院発行 1/200,000 『字都宮』 『長野』、1/25,000 『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。
- 3 土層の色調は『新版標準土色帖』(農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修)に基づいている。
- 4 遺構名称は、住居跡:H、溝:W、土坑:D、土壙墓:DB、井戸跡:I、ピット:Pである。 例外として火葬跡は略称を使用していない。
- 5 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。 遺構 住居跡・土坑・ピット・・・1/60 竃・・・1/30 道路状遺構・・・1/120 溝・・・1/100、1/150

遺物 土器・石製品・・・1/3、1/4 鉄製品・・・1/2 古銭・・・1/1

6 表中の計測値については()は現存値を表す。

土壙墓・火葬跡・・・ 1/20 全体図・・・ 1/200

7 遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

8 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B (浅間 B 軽石: 1108)、Hr-FP (榛名二ッ岳伊香保テフラ: 6世紀中葉)、

Hr-FA (榛名二ッ岳渋川テフラ:6世紀初頭)、As-C (浅間 C 軽石:推定3世紀後葉)

	目 次
口絵 1 口絵 2	
序	
例言・	1.例
ΙĒ	周査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
	周査の方針と経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
•	なな
	5 構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
	きとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
	挿図目次
Fig. 1	遺跡の位置
Fig. 2 Fig. 3	周辺遺跡図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2 基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Fig. 4	一元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Fig. 5	調査区全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
FIg. 6	H – 1 号住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
Fig. 7	H-2・3号住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
Fig. 8	H - 3 号住居跡篭、H - 4 号住居跡、P - 7 ~ 9 号ピット・・・・・・・・・・・・・12
Fig. 9	H-5・6号住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13 A-1号道路状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Fig.10 Fig.11	A-1 号追路状遺愽・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14 W-1 号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Fig. 12	W-2~6号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
FIg. 13	DB-1・2号土壙墓、1号火葬跡、D-1~3号土坑・・・・・・・・・・・・・・・17
Fig.14	D-4~12号土坑、P-1~6·10号ピット・・・・・・・・・・・・・18
Fig.15	H - 1 ~ 3 · 5 号住居跡出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
Fig.16	H-5·6号住居跡、W-1号溝、1号火葬跡、
DI - 17	D-12号土坑、遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20 遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
FIg.17	週件クト山工週初・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Z1
	表目次
Tab. 1	周辺遺跡概要一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
Tab. 2	調査経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
Tab. 3	出土遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21 井戸・土坑・ピット計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
Tab. 4	升戸・工机・ビット計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
	写真図版目次
PL. 1	調査区全景
PL. 2	H-1 号住居跡全景、 $H-1$ 号住居跡遺物出土状況、 $H-2$ 号住居跡全景、 $H-3$ 号住居跡全景、
	H-3号住居跡竃全景、H-3号住居跡遺物出土状況、H-4号住居跡全景
PL. 3	H-4号住居跡竃全景、H-5号住居跡全景、H-5号住居跡竃全景、H-5号住居跡遺物出土状況、
	H-6号住居跡全景、H-6号住居跡竃全景、A-1号道路状遺構東側側溝全景、 A-1号道路状遺構砂礫敷設状況
PL. 4	N-1号 担
- 2, 1	1号火葬跡確認状況、1号火葬跡全景
PL. 5	出土遺物
PL. 6	出土遺物

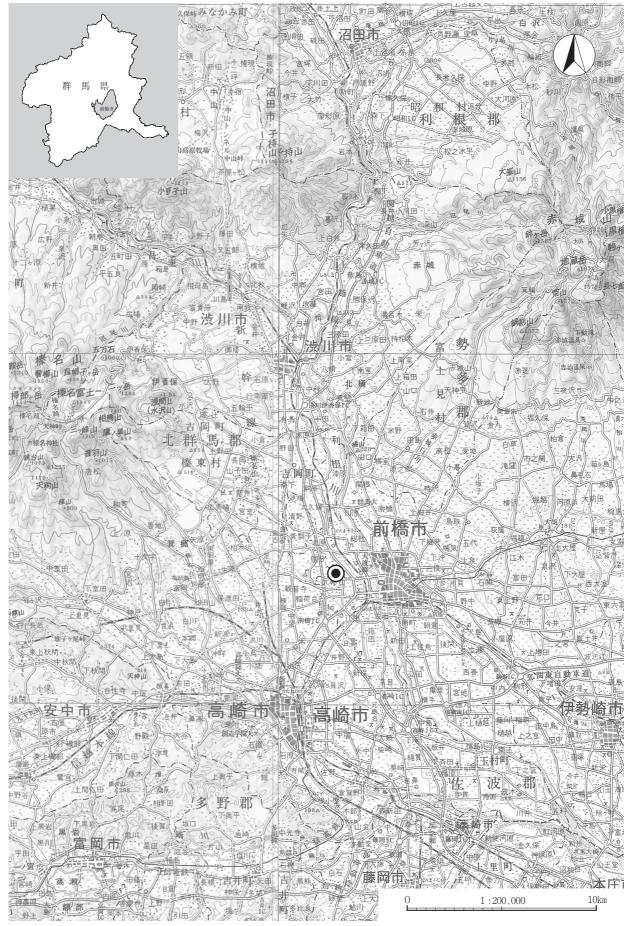


Fig.1 遺跡の位置

Ⅰ 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、10年目にあたる。本調査地は、 周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成21年9月4日付けで前橋市長 高木政夫(区画整理第二課)より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 戸塚良明(以下「調査団」という。)に発掘調査実施について協議を行った。しかし、調査団では既に直営による発掘調査を実施しており、調査団直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託したいとの回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成21年10月16日付けで前橋市と調査団との間で発掘調査業務契約を締結し、その後、10月21日付けで調査団と民間調査組織である技研測量設計株式会社代表取締役社長嶋田大和との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査開始を開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群 (30)」(遺跡コード:21A130-30)の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「(30)」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

Ⅱ 遺跡の位置と環境

遺跡の位置

本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社地内に所在し、西約0.7kmには関越自動車道が南北に、南には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東約0.5kmには市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。本調査地の立地する地形は、前橋台地上、榛名山麓を源にする牛池川、染谷川が開析・形成した細長い微高地との比高3~5mを測る。遺跡が立地する台地上は主として桑畑などの畠地として利用されているが、本遺跡地の所在する位置は南東に開く緩やかな谷地形を呈しており、水田として利用されていた。

歴史的環境

本遺跡が立地する元総社地域には上野国府推定地や上野国分寺を中心に連綿と遺跡が広がる地域である。周辺では関越自動車道建設や区画整理事業等に伴う発掘調査が行われており、多くの遺物・遺構が確認されている。本遺跡周辺地域における時代ごとの遺跡の概要は以下の通りである。

縄文時代の遺跡は八幡川右岸の微高地上に産業道路東 [15]・産業道路西 [16]・総社閑泉明神北Ⅲ遺跡 [61]、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域 [22]・元総社小見Ⅲ遺跡 [59]・元総社蒼海遺跡群 (24) [64] などが挙げられ、竪穴住居跡が確認されている。

弥生時代に遺跡としては日高遺跡 [18]・[19]、上野国分僧寺・尼寺中間地域 [22]、正観寺遺跡 [21] 等があるがその分布は散漫である。

古墳時代になると本遺跡周辺の区域は県内でも中心的な地域であったことが窺われる。それを示すものとして 総社古墳群が上げられ、古墳時代後期・終末期に至り、王山古墳 [7]、二子山古墳 [12]、愛宕山古墳 [10]、宝 塔山古墳 [13]、蛇穴山古墳 [8] 等の首長墓が多数築造された。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府、国分寺 [2]、国分尼寺 [3]、山王廃寺 [4] の建設に示されるように古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡の南東の区域におよそ900 m四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡 [14]、元総社寺田遺跡 [43]、元総社宅地遺跡 [55] などがある。また元総社明神遺跡 [24] では南北方向の溝跡、閑

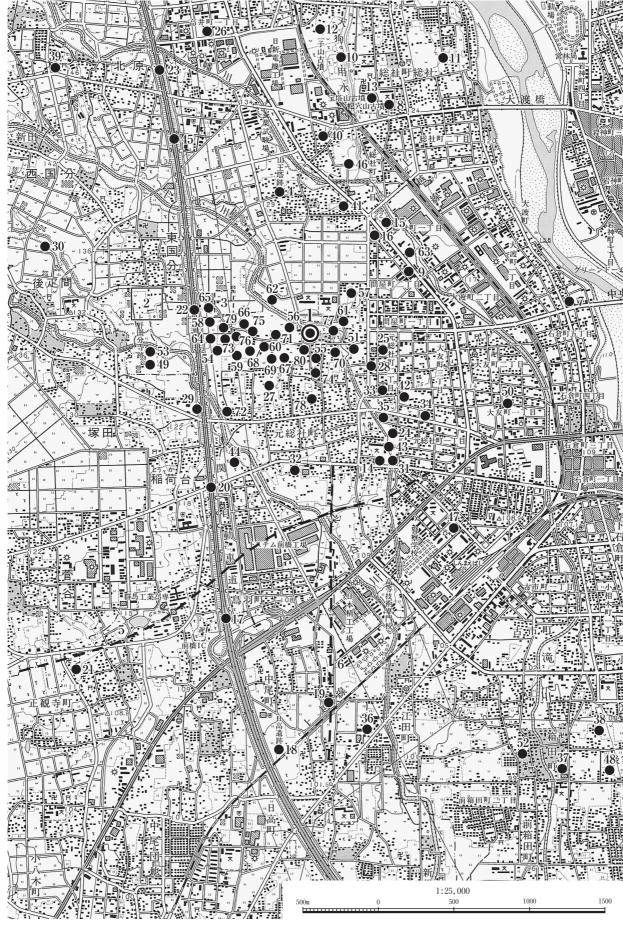


Fig. 2 周辺遺跡図

泉樋遺跡 [25] では東西方向の大溝が確認され、国府域の東外郭線が想定された。

国分寺は昭和55年以降の調査により、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。国分尼寺は昭和44・45年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成12年の前橋市埋蔵文化財発掘調査団の確認調査により、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。関連遺跡として中尾遺跡[17]、鳥羽遺跡[20]、上野国分僧寺・尼寺中間地域[22]などが挙げられる。

山王廃寺は昭和3年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和49~56年にかけて7次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」箆書の平瓦出土により山王廃寺が「山ノ上碑」「上野交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。また平成9~11年の調査でも土坑から大量の塑像が出土、平成18・19年の調査では北・東・西面の回廊を検出している。

また本遺跡の南約 1.5km には N -64° - E 方向に東山道(国府ルート)が、日高遺跡 [19] では幅約 4.5 mの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。これらは当時の交通網を物語る重要な遺構である。

室町時代になると上野国守護の上杉氏から上野国守護代に任命された長尾氏が永享元年(1429) に蒼海城を築き、これを本拠地とした。蒼海城は県内でも最古級の城郭に位置づけられ、縄張りは国府の掘割と関連深いと考えられている。本遺跡周辺には屋敷に堀を巡らした城館跡が数多く認められる。元総社蒼海遺跡群(14)・(21)・(23) [74・78・80] では蒼海城の堀跡が確認されており、元総社蒼海遺跡群(25) [70] では南宋~元時代の青磁梅瓶が出土している。

Tab. 1 元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

Tab. I	兀総社倉海遺跡群周辺遺跡	小伙女	2.久
番号	遺跡名	調査年度	時代:主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群 (30)	2009	本遺跡
2	上野国分寺跡 (県教委)	1980~88	奈良: 金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良:西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	奈良:塔心礎・根巻石・金堂基壇・講堂版築・回廊礎石
5	東山道 (推定)	-	
6	日高道 (推定)	-	
7	王山古墳	1972	古墳:前方後円墳(6c中)
8	蛇穴山古墳	1975	古墳: 方墳 (8 c 初)
9	稲荷山古墳	1988	古墳:円墳(6c後半)
10	愛宕山古墳	1996	古墳:円墳(7c初)
11	遠見山古墳	未調査	古墳:前方後円墳(5 c後半)
12	総社二子山古墳	未調査	古墳:前方後円墳 (6 c 末~ 7 c 初)
13	宝塔山古墳	未調査	古墳: 方墳 (7 c末)
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安:掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文:住居跡
16	産業道路西遺跡		縄文:住居跡
17	中尾遺跡 (事業団)	1976	奈良・平安: 住居跡
18	日高遺跡 (事業団)	1977	弥生:水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農具、平安:条里制水田跡
19	日高遺跡 (高崎市)	(1978)	弥生:水田跡
20	鳥羽遺跡(事業団)	1978~83	古墳:住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡(神殿跡)
21	正観寺遺跡 I ~Ⅳ(高崎市)	1979~81	弥生:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:溝跡
22	上野国分僧寺・尼寺中間地域(事業団)	1980~83	縄文:住居跡・配石遺構、弥生:住居跡・方形周溝墓、古墳:住居跡、
22	工具四分值 () () () () () () () () ()	1300 00	奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡、中世:掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
23	北原遺跡(群馬町)	1982	縄文:土坑・集石遺構、古墳:水田跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡
24	元総社明神遺跡 I ~ X Ⅲ	1982~96	古墳:住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安:住居跡・溝跡、中世:住居跡・溝跡
25	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安: 溝跡
26	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983、1988	奈良・平安: 住居跡・溝跡
27	草作遺跡	1984	古墳:住居跡、平安:住居跡、中世:井戸跡
28	閑泉樋南遺跡	1985	古墳:住居跡、奈良・平安:溝跡
29	塚田村東遺跡 (群馬町)	1985	平安:住居跡
30	後疋間遺跡 I ~Ⅲ (群馬町)	1985~87	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:道路状遺構
31	寺田遺跡	1986	平安: 溝跡
32	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986、88	奈良、平安:住居跡
33	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986、95	古墳:住居跡、平安:住居跡、中世:堀跡・石敷遺構
34	堰越遺跡	1987	奈良・平安:住居跡・溝跡
35	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳:住居跡、平安:住居跡・溝跡・地下式土坑
36	勝呂遺跡	1987	平安: 水田跡
37	村前遺跡	1987	平安: 溝状遺構・水田跡
38	五反田遺跡	1987	平安: 水田跡
39	熊野谷遺跡	1988	縄文:住居跡、平安:住居跡・溝跡
40	村東遺跡	1988	古墳:住居跡・溝跡、奈良・平安:住居跡、中世:堀跡
41	昌楽寺廻向遺跡 · Ⅱ 遺跡	1988	奈良、平安:住居跡
42	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安:住居跡
43	元総社寺田遺跡 I ~Ⅲ(事業団)	1988~91	古墳:水田跡・溝跡、奈良・平安:住居跡、中世:溝跡

29 200 전 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	番号	遺跡名	調査年度	時代:主な遺構・出土遺物
1970年	39	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安:住居跡
□ 20分別 直接	44	弥勒遺跡 · Ⅱ 遺跡	1989、95	古墳:住居跡、平安:住居跡
65 日の中国主部が (中国) 1991 1991 1992 1992 1992 1993 1995	45	国分境遺跡 (事業団)	1990	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡
58 大型性の影響 1 以 1992 - 200 現文 上記、字形 1993 1993 1995	45	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡
1950 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大	45	国分境Ⅲ遺跡 (群馬町)	1991	
20	46	大屋敷遺跡 I ~ VI	1992~2000	
1990 上野田分子参加温野	47	元総社稲葉遺跡		
1988 大文で地に自身				
1909				
1990 25m 24m 25m 2				
2000 大学社会主義				
55 別志社小兄見藤 2000 対策: (田原本、 空息、 平安・ (田彦本・ 電池・ 温泉と泉) 1.				
55 20世代王朱皇祖 1-201 1-22 2000 201				
2001 小地 小地 小地 小地 小地 小地 小地 小				
201 お見十年報音を大きの言葉 201 お見・平安・日秋等・清珠・中学・6株 清華 202 お見・平安・日秋等・清珠・ 中学・6株 清華 303 お見・中学・日秋等・清珠・ ア学・日秋等・清珠 304 105				
51 松村中部同東大造西省直接				
2011 公理社会以自工商等				
2002 組文:住田原、公司、中安:住田原、公司、中安:住田原、治理、海路、温路状遺傳 2002 組文:住田原、公司、中安:住田原、海路、中世、清曆・温路状遺傳 2002 公司、住田原、公司、中安:住田原、海路、中世、清曆・温路状遺傳 2002 公司、住田原、公司、中安:住田原、海路、中田、清曆・温路状遺傳 2002 公司、住田原、公司、中安:住田原、海路、中田、清曆・温路状遺傳 2002 公司、住田原、公司、中安:住田原、海路、中田、清曆・温路状遺傳 2002 公司、住田原、公司、中安:住田原、海路、中田、清曆 2003 株式住田原、金田 2004 株式住田原、金田 2005 株式住田原 2005 株式住田原、金田 2005 株式住田原 2005 2				
2012 現立・日野藤、大田・日野藤 2012 親文・住野藤、大田・田野藤 2014 名食・平安・住野藤 講路・道路状態等 2012 名食・平安・住野藤 電子・ビ田藤・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田田・田				
2002 古典:白田原、				
2022				
61 松土甲岛南北江河町田連野 2002 萬文:任田陽、合称、平安:任阳陽、白肺、海豚 1 1 1 1 1 1 1 1 1				
61 記社報名明神紀日連路 2002 故文: 住居路、 治療: 住居路、 治療: 在居路 2003 故文: 住居路、 治療: 在居路 2005 治療: 在民路 2005 神変: 在民路 2005 治療: 在民路 2005 神療: 在民路 2005 神療: 在民路 2005 神療: 在民路 2005 治療: 在民路 2005				
2002 - 04 方式 生化形				
66 元能社小見以連勝 2003 線文:住居跡、古墳:住居跡、全角、平安:住居跡、中世:議跡 2004 古墳:住居跡、古墳:住居跡、古墳:住居跡、中世:議跡 2005 古墳:住居跡、古墳:住居跡、古墳:住居跡、中世:墓跡 2005 古墳:住居跡、白貨:任居跡、西倉・平安:住居跡、神世:居跡 2005 古墳:住居跡、西倉・平安:住居跡 2005 古墳:住居跡 2005 全角、平安:住居跡 2006 古墳:住居跡 名角、平安:住居跡 2006 日墳:任居跡 名角、平安:住居跡 2006 日墳:任居跡 名角、平安:住居跡 2006 日墳:住居跡 名角、平安:住居跡 2006 日墳:住民跡 名角、平安:住居跡 元母:日野地 2006 日墳:住民跡 名角、平安:住居跡 名角、平安:住居跡 日井 2006 日墳:住民跡 名角、平安:住民跡 日井 2006 日墳:住民跡 名角、平安:住民跡 日井 2006 日墳:住民跡 名角、平安:住民跡 日井 2006 日墳:住民跡 名角、中世:清跡 2006 日墳:住民跡 名角、中世:清渉 2006 日墳:住民跡 名角、中世:清渉 2006 日墳:住民跡 名角、中世:清渉 2006 日墳:住民跡 名角、中世:清跡 2006 日墳:住民跡 名角、中世:清跡 2006 日墳:任民跡 名角、中世:清渉 2006 日墳:日野 2006 日墳	62		2002~04	古墳:水田跡、奈良・平安:住居跡・畠跡、中近世:掘立柱建物跡、水田跡・火葬墓
66 元能社小見以連勝	63	稲荷塚道東遺跡 (事業団)	2003	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・溝跡・竈構築財採掘痕・井戸跡
61	64	元総社小見IV遺跡	2003	
60 元紀十八見内道遊路 2003 奈良・平安:住居路・清路、中世・月戸路 2003 奈良・平安:住居路・高良・平安:住居路・ 二郎 1 2003 奈良・平安:住居路・ 五良・平安:住居路・ 二郎 1 2003 奈良・平安:住居路・ 一部 2004 奈良・平安:住居路・ 一部 2004 奈良・平安:住居路・ 二郎 1 2004 元紀十八見り道路 2004 元紀十八見り道路 2004 元紀十八見り道路 2004 元紀十八見り道路 2004 元紀十八見り道路 2004 元紀十八見り道路 2004 奈良・平安:住居路・ 二郎 1 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	65	元総社小見V遺跡	2003	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:掘立柱建物跡
66 元総社小見内電道路 2003 概文:住居務、奈食・平安:住居路・組立柱建物路、中世:高路・清路 67 元総社小見内電道路 2004 概文:住居務・清路、中世:窓穴状理傳 2004 概文:住居務・古津・民居路・元年・任居務 2004 概文:住居務・古津・任居務・会良・平安・住居務 2004 元総社小見内電路 2004 2005 2004 2004 2004 2004 2005 2004 2004 2005 2004 2004 2005 2004 2004 2005 2004 2004 2005 2004 2004 2005 2004 2004 2005 2004	61	総社甲稲荷塚大道西IV遺跡	2003	古墳:畠跡、中世:畠跡
61 元総計小見い遺跡 2004 瀬文:住居跡・清跡・中世・黎穴状遺傳 64 元総計小見い遺跡 2004 瀬文:住居跡・古墳:住居跡・奈良・平安:住居跡 68 元総計小見取遺跡 2004 瀬文:住居跡・古墳:住居跡・奈良・平安:住居跡 68 元総計小見取遺跡 2004 奈良・平安:住居跡・中世・清跡 2004 奈良・平安:住居跡・中世・清跡 2004 奈良・平安:住居跡・中世・清跡 2004 六郎・平安:住居跡・中世・清跡 2005 六郎・北村・月内又遺跡 2004 六郎・住居跡・赤良・平安:住居跡・大田・清跡 2005 六郎・北村・月内又遺跡 2004 六頃:住居跡・奈良・平安:住居跡・大田・清跡 2005 六郎・北村・田藤・ 元郎・北村・田藤・ 元郎・北村・田藤・ 10 2005 元郎・北村・西藤・ 2004 六頃:住居跡・奈良・平安:住居跡 2005 元郎・北村・西藤・ 2004 元頃:北田跡・奈良・平安:住居跡 70 総社園原則持北・遺跡 2005 元郎・平安:住居跡・清跡・中世・清跡 2005 元郎・北古・遺跡 2005 元郎・平安:住居跡 元郎・ 2005 元郎・ 2005 元頃:住居跡・奈良・平安:住居跡 清跡・中世・周溝・土壙第 2005 元郎・北古・遺跡 2005 元頃:住居跡・奈良・平安:住居跡 清跡 2005 元郎・ 2005 元頃・ 2005	60	元総社小見内VI遺跡	2003	奈良・平安:住居跡・溝跡、中世:井戸跡
64	66	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	縄文:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡、中世:畠跡・溝跡
64 元総社小見取遺跡 2004 縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡 2004 奈良・平安:住居跡 中世:溝跡 2004 奈良・平安:住居跡 中世:溝跡 2004 奈良・平安:住居跡 中世:溝跡 2004 六段土 古墳:住居跡 大田 2005 六段土 古墳:住居跡 大田 2005 六段土 古墳:住居跡 大田 2005 六段土 古墳:住居跡 大田 2005 六段土 古墳:住居跡 六段土 古墳:土田 2005 六段土 古墳:住居跡 六段土 古墳:住居跡 六段土 古墳:土田 2005 六段土 古墳:住居跡 六段土 古墳:土田 2005 六段土 古墳:住居跡 六段土 古墳:土田 2005 六日土 古墳:住居跡 六日土 古跡 六日本 古山 古山 古山 六日本 古山	67	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良·平安:住居跡·溝跡、中世:竪穴状遺構
68 元総社小見凡遺跡 2004 奈良・平安:住居跡、中世:溝跡 2004 奈良・平安:住居跡、中世:溝跡 2004 奈良・平安:住居跡、中世:溝跡 2004 奈良・平安:住居跡、東京・平安:住居跡・井戸跡・航度採棚坑、中世:溝跡・土壙墓 2004 古墳:住居跡・奈良・平安:住居跡・井戸跡・鍛冶工房跡、中世:溝跡・土壙墓 2004 古墳:在居跡・奈良・平安:住居跡・井戸跡・鍛冶工房跡、中世:溝跡 2005 奈良・平安:住居跡・清跡・土壙墓 2005 奈良・平安:住居跡・清跡・土壙墓 2005 奈良・平安:住居跡・清跡・土壙墓 2005 元総社養海遺跡群 (1) 2005 奈良・平安:住居跡・清跡・中世:溝跡・土壙墓 2005 元総社養海遺跡群 (5) 2005 云墳:住居跡・奈良・平安:住居跡・清跡・中世:周涛上遠博・土壙墓 2006 石墳:在居跡・奈良・平安:住居跡・清跡 中世:周涛上遠博・土壙墓 2006 石墳:在居跡・奈良・平安:住居跡 2006 石墳:住居跡・奈良・平安:住居跡 2006 四北社養海遺跡群 (8) 2006 石墳:住居跡・奈良・平安:住居跡・ 井戸跡 2006 石墳:住居跡・奈良・平安:住居跡・市田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田	64	元総社小見VI遺跡	2004	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡
68 元総社小児内区遺跡 2004 奈良・平安:住居跡・中世:溝跡 2004 古墳・住居跡・奈良・平安:住居跡・工房跡・粘皮採棚坑、中世:溝跡・土壙墓 60 元総社高海遺跡群 (2) 、(6) 2004 古墳・住居跡・奈良・平安:住居跡・井戸跡・銀冶工房跡・中世:溝跡 2005 古墳・社田跡・奈良・平安:住居跡・井戸跡・銀冶工房跡・中世:溝跡 2005 奈良・平安:住居跡・赤良・平安:住居跡 元総社高海遺跡群 (4) 2005 ベス総社高海遺跡群 (4) 2005 ベス総社高海遺跡群 (4) 2005 ベス総社高海遺跡群 (5) 2006 ベス総社高海遺跡群 (5) 2006 ベス総社高海遺跡群 (6) 2006 ベス総社高海遺跡群 (7) 2007 公総社高海遺跡群 (8) 2006 六良・平安:住居跡・海跡 70 元総社高海遺跡群 (8) 2006 六良・平安:住居跡・海跡 70 元総社高海遺跡群 (8) 2006 古墳・住居跡・奈良・平安:住居跡・地田・清跡 70 元総社高海遺跡群 (1) 2006 古墳・住居跡・奈良・平安:住居跡・地田・清跡 70 元総社高海遺跡群 (1) 2006 古墳・住居跡・奈良・平安:住居跡・中世:溝跡 74 元総社高海遺跡群 (1) 2006 古墳・住居跡・奈良・平安:住居跡・中世:溝跡 74 元総社高海遺跡群 (1) 2008 ベス総社高海遺跡群 (1) 2008 ベス総社高海遺跡群 (1) 2008 ベス総社高海遺跡群 (1) 2008 本貨・住居跡・本田跡・奈良・平安・住居跡・北田藤・赤良・平安・住居跡・北田彦・北京路・北京路・平田・清跡・中世・清跡・元総社高海遺跡群 (16) 2008 奈良・平安・住居跡・本田跡・森良・平安・住居跡・北田藤・奈良・平安・住居跡 75 元総社高海遺跡群 (18) 2008 六成社高海遺跡群 (19) 2008 六成社高海遺跡群 (19) 2009 古墳・住居跡・高社小区崎・山田・井戸跡 75 元総社高海遺跡群 (19) 2009 古墳・住居跡・水田・井戸跡 76 元総社高海遺跡群 (2) 2009 古墳・住居跡・水田・井戸跡 77 元総社高海遺跡群 (2) 2009 古墳・住居跡・東土・井戸跡 78 元総社高海遺跡群 (2) 2009 古墳・住居跡・奈良・平安・住居跡 東上・井戸跡 79 元総社高海遺跡群 (2) 2009 古墳・住居跡・奈良・平安・土木海峡の州湖跡 64 元総社高海遺跡群 (2) 2009 古墳・住居跡・西山・日が藤・寛・野・大海横・田・方形野・大井戸 70 元総社高海遺跡群 (2) 2009 古墳・住居跡・西山・日が藤・寛・野・大海峡の州路・ 八田・西川・田・東マ・大道橋・田・田・東マ・大道橋・田・田・東マ・大道橋・田・田・東マ・大道橋・田・田・大戸町・西山・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・	64	元総社小見Ⅷ遺跡	2004	
69 元総柱小見内X遺跡 2004 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・土頂跡・執度採細坑、中世:溝跡 土壤縣 (60 元総柱香海遺跡群 (2) 、(6) 2004 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・赤月 中安:住居跡 (41 元) (42 元) (42 元) (43 元				
60 元総社畜海遺跡群 (2) 、 (6)				
70 総社商泉明神北V遺跡 2004 古墳:水田跡、奈良・平安:住居跡 66 元総社香海遺跡群 (1) 2005 奈良・平安:住居跡 清跡、中世:溝跡・土壊瘍 60 元総社香海遺跡群 (4) 2005 縄文:住居、方真:住居跡、奈良・平安:住居跡 清跡 71 元総社香海遺跡群 (5) 2005 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡 清跡 72 元総社香海遺跡群 (8) 2006 古墳:住居跡 奈良・平安:住居跡 清跡 72 元総社香海遺跡群 (8) 2006 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡 清跡 70 元総社香海遺跡群 (9) ・ (10) 2006 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡 清跡 70 元総社香海遺跡群 (1) 2006 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡 北西 北西 北西 北西 北西 北西 北西 北				
 元総社音海遺跡群 (1) 2005 奈良・平安:住居跡・溝跡・土壤墓 元総社音海遺跡群 (4) 2005 縄文:住居、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡 71 元総社音海遺跡群 (5) 2005 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・溝跡 70 元総社音海遺跡群 (7) 2005 奈良・平安:住居跡・溝跡 70 元総社音海遺跡群 (8) 2006 奈良・平安:住居跡・溝跡 70 元総社音海遺跡群 (8) 2006 古墳:住居跡・奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡・溝跡 69 元総社音海遺跡群 (1) 2006 古墳:住居跡・奈良・平安:住居跡、中世:溝跡 56 元総社音海遺跡群 (12) 2006 古墳:住居跡・奈良・平安:住居跡、中世:溝跡 73 元総社音海遺跡群 (13) 2008 縄文:住居跡・古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡・中世:溝跡・上壤墓 74 元総社音海遺跡群 (14) 2008 元章・平安:住居跡・北山本・安全・住居跡・加立柱建物跡・中世:溝跡・空穴状遺構・井戸跡 75 元総社音海遺跡群 (15) 2008 奈良・平安:住居跡・満跡・中世:溝跡 76 元総社音海遺跡群 (18) 2008 奈良・平安:住居跡・高跡・中世:溝跡 76 元総社音海遺跡群 (18) 2008 白墳:小区両北田跡・中世:井戸跡 78 元総社音海遺跡群 (2) 2009 白墳:住居跡・奈良・平安:住居跡 79 元総社音海遺跡群 (22) 2009 白墳:住居跡・奈良・平安:住居跡 76 元総社音海遺跡群 (23) 2009 白墳:住居跡、奈良・平安:住居跡 76 元総社音海遺跡群 (23) 2009 白墳:住居跡、奈良・平安:住居跡 76 元総社音海遺跡群 (23) 2009 白墳:住居跡・奈良・平安:住居跡・奈良・平安:住居跡・野穴・井戸 76 元総社音海遺跡群 (23) 2009 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・奈良・平安:住居跡・野穴・北戸門・万形竪穴・井戸 76 元総社音海遺跡群 (23) 2009 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・奈良・平安:住居跡・野穴・北戸門・万形竪穴・井戸 76 元総社音海遺跡群 (24) 2009 古墳:住居跡・奈良・中安:住居跡・奈良・平安:住居跡・野穴・元時代の青磁極変 (24) 2009 古墳:住居跡・中安:住居跡・中世:青海域の堀跡 				
60 元総社音海遺跡群 (4)				
71 元総社耆海遺跡群 (5) 2005 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、溝跡、中世:周溝上遠構・土嶼墓 70 元総社耆海遺跡群 (7) 2005 奈良・平安:住居跡、溝跡 72 元総社耆海遺跡群 (8) 2006 奈良・平安:住居跡 70 元総社耆海遺跡群 (10) 2006 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、申世:溝跡 69 元総社耆海遺跡群 (12) 2006 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:溝跡 56 元総社耆海遺跡群 (12) 2006 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:井戸跡 73 元総社耆海遺跡群 (13) 2008 縄文:住居跡、赤良・平安:住居跡、中世:溝跡 74 元総社耆海遺跡群 (14) 2008 古墳:住居跡、赤食・平安:住居跡・堀立柱建物跡、中世:溝跡・竪穴状遺構・井戸跡 75 元総社耆海遺跡群 (15) 2008 奈良・平安:住居跡・清跡、中世:溝跡 73 元総社耆海遺跡群 (16) 2008 奈良・平安:住居跡・高跡、中世:溝跡 76 元総社耆海遺跡群 (18) 2008 平安:住居跡・出井戸跡 76 元総社耆海遺跡群 (19) 2008 古墳:小区画水田跡、中世:清海域の場跡・盛土状遺構 79 元総社耆海遺跡群 (21) 2009 古墳:住居跡・廃食・平安:住居跡・一安、・住居跡・一安・・上居跡・一安・・大遺跡・一世・・オ会域・中世・・方形堅穴・井戸 78、80 元総社耆海遺跡群 (24) 2009 古墳:住居跡・一安・・土居跡・中世・・青海域の場跡・中世・・青海域の場跡・一世・・大説師・一				
70 元総社耆海遺跡群 (7) 2005 奈良・平安:住居跡、溝跡 72 元総社耆海遺跡群 (8) 2006 奈良・平安:住居跡 70 元総社耆海遺跡群 (9) · (10) 2006 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、掘立柱建物跡・溝跡 69 元総社耆海遺跡群 (11) 2006 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:溝跡 56 元総社耆海遺跡群 (12) 2006 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:井戸跡 73 元総社耆海遺跡群 (13) 2008 縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・北京跡・中世:溝跡・野、中世:溝跡・野、元総社耆海遺跡群 (15) 75 元総社耆海遺跡群 (15) 2008 奈良・平安:住居跡・海跡・中世:溝跡 73 元総社耆海遺跡群 (16) 2008 奈良・平安:住居跡・山世:溝跡 76 元総社耆海遺跡群 (18) 2008 平安:住居跡・出野・日田・井戸跡・中世:井戸跡・中世: 清海域の堀跡・中世: 孝海域の堀跡・空、大池構博・東京・中世: 着海域の堀跡・空、大池構博・大田・中世: 寿彦・西・中世: 本海域の堀跡・京良・平安:住居跡・一世: 著海域の堀跡・元総社耆海遺跡群 (21) 2009 古墳:住居跡・奈良・平安:住居跡・一年・野・大北京・中世: 香海域の堀跡・石総社耆海遺跡群 (23) 2009 古墳:住居跡・奈良・平安:住居跡・一年・日下・野・大北京・中世: 青海域の堀跡・一世: 方形竪穴・井戸・万・北社 香海遺跡群 (24) 2009 西墳:住居跡・奈良・平安:住居跡・一年・野・大北京・中世: 青海域の堀跡・一世: 方形竪穴・井戸・カ・大田・方形竪穴・井戸・方形竪穴・井戸・カ・村・住居跡・中世: 青海域・中世: 方形竪穴・井戸・カ・井戸・大田・青宗・一元時代の青磁梅底・中世: 方形竪穴・井戸・丁・大田・青宗・石藤・田・中・丁・大田・田・青宗・一元時代の青磁梅底・中世: 方形竪穴・井戸・丁・大田・青宗・大田・田・青宗・一元・大田・田・青宗・大田・田・青宗・大田・田・東京・大田・田・田・青宗・大田・田・青宗・大田・田・青宗・大田・田・青宗・大田・田・田・青宗・大田・田・田・大田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・田・				
72 元総社耆海遺跡群(8) 2006 奈良・平安:住居跡 70 元総社耆海遺跡群(9)・(10) 2006 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、規立柱建物跡・沸跡 69 元総社耆海遺跡群(11) 2006 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:溝跡 56 元総社耆海遺跡群(12) 2006 古墳:住居跡、奈食・平安:住居跡、中世:井戸跡 73 元総社耆海遺跡群(13) 2008 縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈食・平安:住居跡、石房跡中・溝跡、中世:溝跡・竪穴状遺標・井戸跡 75 元総社耆海遺跡群(15) 2008 奈良・平安:住居跡・海跡、中世:溝跡 73 元総社耆海遺跡群(16) 2008 奈良・平安:住居跡・海跡・中世:溝跡 73 元総社耆海遺跡群(16) 2008 奈良・平安:住居跡・海跡・中世:溝跡 76 元総社耆海遺跡群(18) 2008 平安:住居跡・一世:溝跡 76 元総社耆海遺跡群(19) 2008 古墳:小区画水田跡、中世:井戸跡 78 元総社耆海遺跡群(21) 2009 古墳:住居跡・変土状遺標 79 元総社耆海遺跡群(22) 2009 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡 78・80 元総社耆海遺跡群(24) 2009 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、奈良・平安:住居跡・一野・一村・中世:青沙城の堀跡 64 元総社耆海遺跡群(24) 2009 超達:住居跡、奈良・平安:住居跡、奈良・平安:住居跡・一野・一村・中世:青沙城の堀跡 70 元総社耆海遺跡群(24) 2009 古墳:住居跡・田田・井戸跡 70 元総社耆海遺跡群(24) <				
70 元総社耆海道跡群 (9) · (10) 2006 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、掘立柱建物跡・溝跡 69 元総社耆海遺跡群 (11) 2006 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:溝跡 56 元総社耆海遺跡群 (12) 2006 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:井戸跡 73 元総社耆海遺跡群 (13) 2008 趣文:住居跡・古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・工房跡中・溝跡・単世:溝跡・型穴,北遺標・井戸跡 74 元総社耆海遺跡群 (14) 2008 去墳:住居跡・水田跡・奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡、中世:溝跡・堅穴,北遺標・井戸跡 75 元総社耆海遺跡群 (15) 2008 奈良・平安:住居跡・山世:溝跡 73 元総社耆海遺跡群 (16) 2008 奈良・平安:住居跡・畠跡、中世:溝跡 76 元総社耆海遺跡群 (18) 2008 平安:住居跡・田世:井戸跡 78 元総社耆海遺跡群 (21) 2009 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡 79 元総社耆海遺跡群 (22) 2009 古墳:住居跡、平良:土坑、中世:耆海城の堀跡 78 元総社耆海遺跡群 (23) 2009 古墳:住居跡、平良:土坑、中世:耆海城の堀跡 78 元総社耆海遺跡群 (23) 2009 古墳:住居跡、平夏:土坑、中世:耆海城の堀跡 70 元総社耆海遺跡群 (24) 2009 越文:住居跡、平夏:土坑、中世:耆海城の堀跡 70 元総社耆海遺跡群 (25) 2009 古墳:住居跡、平夏:土坑、中世:耆海域の堀跡 70 元総社耆海遺跡群 (24) 2009 古墳:住居跡、平夏:土坑、中世:耆海域の堀跡 70				
56 元総社音海遺跡群 (11) 2006 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:溝跡 56 元総社音海遺跡群 (12) 2006 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:井戸跡 73 元総社音海遺跡群 (13) 2008 縄文:住居跡 - 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・加戸跡中・溝跡、中世:溝跡・上壙墓 74 元総社音海遺跡群 (14) 2008 古墳:住居跡・赤田跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡、中世:溝跡・竪穴状遺構・井戸跡 75 元総社音海遺跡群 (15) 2008 奈良・平安:住居跡・清跡 中世:溝跡 76 元総社音海遺跡群 (16) 2008 奈良・平安:住居跡・高跡、中世:溝跡 77 元総社音海遺跡群 (18) 2008 平安:住居跡 中世:井戸跡 78 元総社音海遺跡群 (19) 2008 古墳:小区画水田跡・中世:井戸跡 79 元総社音海遺跡群 (21) 2009 中世:書海域の郷跡・盛土状遺構 79 元総社音海遺跡群 (22) 2009 古墳:住居跡・奈良・平安・住居跡 78 永段・平安・住居跡 79 元総社音海遺跡群 (23) 2009 古墳:住居跡・奈良・平安・住居跡 78 永段・平安・住居跡 78 元総社音海遺跡群 (23) 2009 古墳:住居跡 天立・北方・中世:青海域の郷跡 64 元総社音海遺跡群 (24) 2009 古墳:住居跡 平安・土坑、中世:青海域の郷跡 64 元総社音海遺跡群 (25) 2009 古墳:住居跡・奈良・平安:住居跡・竪穴状遺構、中世:方形竪穴・井戸 70 元総社音海遺跡群 (25) 2009 古墳:住居跡・平安:住居跡・中世:南宋〜元時代の青磁棒瓶2個体				
56 元総社香海道跡群 (12) 2006 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、中世:井戸跡 73 元総社香海道跡群 (13) 2008 縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・規立柱建物跡、中世:溝跡・土壤塞 74 元総社香海道跡群 (14) 2008 古墳:住居跡・水田跡、奈良・平安:住居跡・規立柱建物跡、中世:溝跡・竪穴状遺構・井戸跡 75 元総社香海道跡群 (15) 2008 奈良・平安:住居跡・港跡・中世:溝跡 73 元総社香海道跡群 (16) 2008 奈良・平安:住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
73 元総社菅海遺跡群 (13) 2008 縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡、中世:溝跡・土壙墓 74 元総社菅海遺跡群 (14) 2008 古墳:住居跡・水田跡、奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡、中世:溝跡・竪穴状遺構・井戸跡 75 元総社菅海遺跡群 (15) 2008 奈良・平安:住居跡・諸跡、中世:溝跡 73 元総社菅海遺跡群 (16) 2008 奈良・平安:住居跡・島跡、中世:溝跡 76 元総社菅海遺跡群 (18) 2008 平安:住居跡 77 元総社菅海遺跡群 (19) 2008 古墳・小区画水田跡、中世:井戸跡 78 元総社菅海遺跡群 (21) 2009 中世:蒼海城の郷跡・盛土状遺構 79 元総社菅海遺跡群 (22) 2009 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡 78・80 元総社菅海遺跡群 (23) 2009 古墳:住居跡、平安:土坑、中世:菅海城の堀跡 64 元総社菅海遺跡群 (24) 2009 縄文:住居跡、奈良・平安:住居跡、奈良・平安:住居跡、一里・吉海城市 70 元総社菅海遺跡群 (25) 2009 古墳:住居跡、平安:住居跡、中世:南宋~元時代の青磁棒瓶2側体				
74 元総社蒼海遺跡群 (14) 2008 古墳:住居跡、水田跡、奈良・平安:住居跡、掘立柱建物跡、中世:溝跡・竪穴状遺構・井戸跡 75 元総社蒼海遺跡群 (15) 2008 奈良・平安:住居跡、溝跡、中世:溝跡 73 元総社蒼海遺跡群 (16) 2008 奈良・平安:住居跡、畠跡、中世:溝跡 76 元総社蒼海遺跡群 (18) 2008 平安:住居跡 77 元総社蒼海遺跡群 (19) 2008 古墳:小区画水田跡、中世:井戸跡 78 元総社蒼海遺跡群 (21) 2009 中世:蒼海城の場跡・盛土状遺構 79 元総社蒼海遺跡群 (22) 2009 古墳:住居跡、平安:土坑、中世:耆海城の場跡 78 · 80 元総社蒼海遺跡群 (23) 2009 古墳:住居跡、平安:土坑、中世:耆海城の場跡 64 元総社蒼海遺跡群 (24) 2009 縄文:住居跡、完良・平安:住居跡、奈良・平安:住居跡・竪穴状遺構、中世:方形竪穴・井戸 70 元総社蒼海遺跡群 (25) 2009 古墳:住居跡、中世:南宋〜元時代の青磁棒瓶2個体				
75 元総社菅海遺跡群 (15) 2008 奈良・平安:住居跡・溝跡・中世:溝跡 73 元総社菅海遺跡群 (16) 2008 奈良・平安:住居跡・畠跡・中世:溝跡 76 元総社菅海遺跡群 (18) 2008 平安:住居跡 77 元総社菅海遺跡群 (19) 2008 古墳:小区画水田跡、中世:井戸跡 78 元総社菅海遺跡群 (21) 2009 由世:蒼海城の場跡・盛土状遺構 79 元総社菅海遺跡群 (22) 2009 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡 78・80 元総社菅海遺跡群 (23) 2009 古墳:住居跡、平安:土坑、中世:菅海城の堀跡 64 元総社菅海遺跡群 (24) 2009 縄文:住居跡、岩良・平安:住居跡、奈良・平安:住居跡・竪穴状遺構、中世:方形竪穴・井戸 70 元総社菅海遺跡群 (25) 2009 古墳:住居跡、平安:住居跡、中世:南宋〜元時代の青磁梅瓶2個体				
73 元総社蒼海遺跡群 (16) 2008 奈良・平安:住居跡・畠跡・由世:溝跡 76 元総社蒼海遺跡群 (18) 2008 平安:住居跡 77 元総社蒼海遺跡群 (19) 2008 古墳:小区画水田跡、中世:井戸跡 78 元総社蒼海遺跡群 (21) 2009 中世:蒼海域の場跡・盛土状遺構 79 元総社蒼海遺跡群 (22) 2009 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡 78 · 80 元総社蒼海遺跡群 (23) 2009 古墳:住居跡、平安:土坑、中世:蒼海域の場跡 64 元総社蒼海遺跡群 (24) 2009 縄文:住居跡、六墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・竪穴状遺構、中世:方形竪穴・井戸 70 元総社蒼海遺跡群 (25) 2009 古墳:住居跡、平安:住居跡、中世:南宋~元時代の青磁梅瓶2側体				
76 元総社養海遺跡群 (18) 2008 平安:住居跡 77 元総社養海遺跡群 (19) 2008 古墳:小区画水田跡、中世:井戸跡 78 元総社養海遺跡群 (21) 2009 中世:養海域の期跡・盛土状遺博 79 元総社養海遺跡群 (22) 2009 古墳:住居跡、奈良・平安・住居跡 78・80 元総社養海遺跡群 (23) 2009 古墳:住居跡、平安・土坑、中世:養海域の規跡 64 元総社養海遺跡群 (23) 2009 西墳:住居跡、平安:住居跡、平安:在居跡・野へ状遺構、中世:方形竪穴・井戸 70 元総社養海遺跡群 (25) 2009 古墳:住居跡、平安:住居跡、中世:南宋〜元時代の青磁棒瓶2個体				
77 元総社营海道跡群 (19) 2008 古墳:小区画水田跡、中世:井戸跡 78 元総社营海道跡群 (21) 2009 中世:養海域の堀跡・盛土状遺構 79 元総社营海道跡群 (22) 2009 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡 78 · 80 元総社营海道跡群 (23) 2009 古墳:住居跡、平安:土坑、中世:蒼海域の堀跡 64 元総社营海道跡群 (24) 2009 縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡、空穴状遺構、中世:方形堅穴・井戸 70 元総社营海遺跡群 (25) 2009 古墳:住居跡、平安:住居跡、中世:南宋〜元時代の青磁棒版2個体				
78 元総社营海道跡群 (21) 2009 中世:蒼海城の堀跡・盛土状遺構 79 元総社菅海遺跡群 (22) 2009 古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡 78 · 80 元総社菅海遺跡群 (23) 2009 古墳:住居跡、平安:土坑、中世:菅海城の堀跡 64 元総社菅海遺跡群 (24) 2009 縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・竪穴状遺構、中世:方形堅穴・井戸 70 元総社菅海遺跡群 (25) 2009 古墳:住居跡、平安:住居跡、中世:南宋~元時代の青盛梅飯2個体				
78・80 元総社菅海道跡群 (23) 2009 古墳:住居跡、平安:土坑、中世:菅海城の堀跡 64 元総社菅海道跡群 (24) 2009 縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・竪穴状遺構、中世:方形竪穴・井戸 70 元総社菅海道跡群 (25) 2009 古墳:住居跡、平安:住居跡、中世:南宋~元時代の青磁梅瓶2個体				中世:蒼海域の堀跡・盛土状遺構
64 元総社 蒼海遺跡群 (24) 2009 縄文:住居跡、六墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・竪穴状遺構、中世:方形竪穴・井戸 70 元総社 蒼海遺跡群 (25) 2009 古墳:住居跡、平安:住居跡、中世:南宋〜元時代の青磁梅瓶 2 個体	79	元総社蒼海遺跡群 (22)	2009	古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡
70 元総社養海遺跡群 (25) 2009 古墳:住居跡、平安:住居跡、中世:南宋~元時代の青磁梅瓶 2 個体	78 · 80	元総社蒼海遺跡群 (23)	2009	古墳:住居跡、平安:土坑、中世:蒼海城の堀跡
	64	元総社蒼海遺跡群 (24)	2009	縄文:住居跡、古墳:住居跡、奈良・平安:住居跡・竪穴状遺構、中世:方形竪穴・井戸
二岭杜本海塘胜野 (95) (90) (91) 2000	70	元総社蒼海遺跡群 (25)	2009	古墳:住居跡、平安:住居跡、中世:南宋~元時代の青磁梅瓶2個体
- 九総社宮傅班弥軒 (20) ~ (29) · (31) 2009~ 96据調宜中	-	元総社蒼海遺跡群 (26) ~ (29) · (31)	2009~	発掘調査中

参考文献

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000 『元総社小見遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001 『元総社小見内Ⅲ遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002 『元総社小見内Ⅳ遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002 『元総社小見皿遺跡・元総社草作V遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003 『元総社小見内Ⅵ遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003 『元総社小見内Ⅷ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005 『元総社小見内IX遺跡・総社閑壱泉明神北V遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006 『元総社蒼海遺跡群 (4)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006 『元総社蒼海遺跡群 (5)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008 『元総社蒼海遺跡群 (13)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008 『元総社蒼海遺跡群 (14)・(19)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008 『元総社蒼海遺跡群 (15)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008 『元総社蒼海遺跡群 (16)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008 『元総社蒼海遺跡群 (18)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009 『元総社蒼海遺跡群 (22)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009 『元総社蒼海遺跡群 (23)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009 『元総社蒼海遺跡群 (24)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009 『元総社蒼海遺跡群 (25)』

Ⅲ 調査の方針と経過

1 調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社土地区画整理事業の道路予定地で、調査面積は 570 ㎡である。グリッド座標については国家座標(日本測地系) $X=+44000.0000~m\cdot Y=-72200.0000~e$ 基点とする 4~mピッチのものを使用し、経線をX、緯線をYとして、北西隅を基点に番付して呼称とした。

本遺跡のX190・Y110の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系 X = +43560.0000 Y = -71440.0000 世界測地系 X = +43914.9035 Y = -71731.7599

発掘調査は11月12日に0.25バックホーを用いて表土掘削を開始した。遺構の確認・掘削は発掘作業員により移植コテ・鋤簾などで慎重に行われた。遺構調査に関しては土層の堆積状況を確認するために土層ベルトを住居跡は主軸方向、土坑・ピット等は長軸方向を基本として設定した。住居跡の遺物に関しては床面直上や住居跡に伴うものはNo遺物とし、覆土中の破片は一括遺物として取り上げた。

遺構図化については空中写真測量と電子平板を用いて平面図・断面図の測量・編集を行った。断面図についてはオルソーフォトに変換して編集を行った。遺構の記録写真については35mmカラーフィルム・リバーサルフィルム・デジタルカメラの3種類を用いて担当者が撮影、遺跡全体に対してはラジコンへリコプターによる空中撮影を実施した。

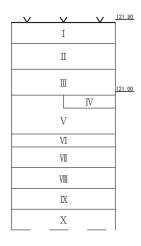
2 調査経過

本遺跡の発掘調査は、平成 21 年 10 月 21 日付けで業務委託契約を委託し、現地調査は平成 21 年 11 月 12 日から 12 月 8 日まで行った。調査経過は以下のとおりである。

Tab. 2 調查経過

1ab. 2	Hul H	-/I-L-/C	-																								
		11月										12月															
	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8
表土掘削																											
遺構確認																											
遺構調査																											
測 量																											
全景撮影																											
埋め戻し																											

IV 基本層序



本遺跡は牛池川の南岸段丘上の平坦地に立地している。調査区内は南へと緩やかに傾斜しているが堆積状況に大きな差異が認められないため比較的良好な状態が見られる調査区北壁のやや東側 (H - 5付近)を基本層序として観察した。

基本層序

- Ⅰ 現耕作土。Ⅱ 暗褐色土 (10YR3/4) As-B混土を含む。締まり有り、粘性やや有り。
- Ⅲ 暗褐色土 (10YR3/2) As-B混土を含む。締まり有り、粘性やや有り。
- IV 黒褐色土 (10YR3/1) As-Cを含む黒色土。締まり有り、粘性有り。
- V にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 小礫を微量含む。締まり有り、粘性有り。
- VI 明黄褐色土 (10YR7/6) V層とW層の中間層。やや砂質土。締まり強い、粘性有り。
- Ⅲ にぶい黄褐色土 (10YR6/4) 砂利を少量含む。砂質土。締まり有り、粘性有り。 Ⅲ にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 砂利を微少量含む。締まり有り、粘性やや有り。
- IX 黄橙色土 (10YR7/8) 砂利・鉄分沈着を少量含む。締まり有り、粘性やや有り。
- X 浅黄橙色土 (10YR8/4) 硬質砂層。締まり強い、粘性有り。

Fig. 3 基本層序

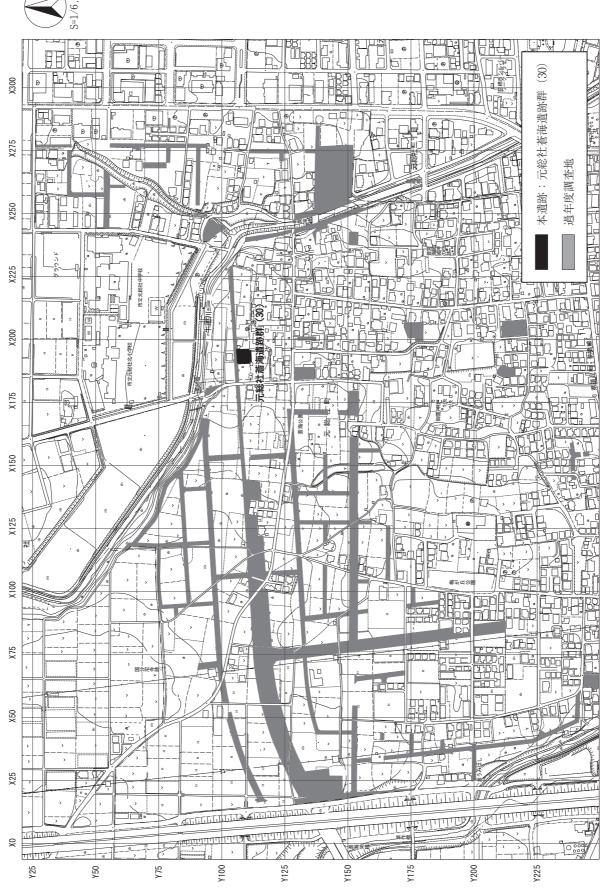


Fig. 4 元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

V 遺構と遺物

H-1 (Fig. $6 \cdot 15$, PL. $2 \cdot 5$)

位置 X 192~194、Y 113 グリッド **主軸方向** N − 67° − W **規模** 長軸 6.23 m、短軸(3.93) m、壁現高 0.57 m。 **面積** 12.08 m **床面** 平坦で硬化面は所々確認できるが広がりをみせない。 **炉** 検出されなかった。 **住居** 内施設 柱穴2基、壁周溝。 出土遺物 少量である。住居跡に帰属する遺物としては床面直上出土のS字口縁台付甕(1)のみである。 時期 出土遺物が少量であるが床面直上で確認されたS字口縁台付甕から4世紀代と考えられる。 備考 本遺跡北側に隣接する元総社小見内Ⅲ遺跡の6区H−1で本住居跡の北西壁・床面・柱穴が確認されている。

H-2 (Fig. 7 · 15, PL. 2 · 5)

位置 $X 193 \sim 195$ 、 $Y 108 \sim 110$ グリッド 主軸方向 $N-77^{\circ}-E$ 規模 長軸 (0.54) m、短軸 (0.53) m、 壁現高 0.39 m。 面積 9.27 ㎡ 床面 ほぼ平坦で硬化面は所々確認できるが広がりをみせない。 電 東壁 か西壁に位置していたと考えられるがW-1によって焼失している。 住居内施設 壁周溝。 重複 W-1と 重複しており、新旧関係は $H-2 \rightarrow W-1$ である。 出土遺物 少量である。須恵器蓋(1)、土師器坏(2) を図示。 時期 出土遺物が少量ではあるが須恵器蓋と土師器坏から7世紀代後半と考えられる。

H-3 (Fig. 7 · 8 · 15, PL. 2 · 5)

位置 X 194・195、Y 107・108 グリッド 主軸方向 N − 92° − E 規模 長軸 (3.90) m、短軸 (3.75) m、 壁現高 0.45 m。 面積 10.32 m 床面 ほぼ平坦で中央部に硬化面が広がる。 電 東壁に位置する。確認長 (0.61) m、燃焼部幅 0.45 m。天井部は完全に崩落しており、構築材は灰黄褐色の粘質土使用している。火床面 は焼土化し、焚口周辺には灰が薄く堆積している。袖の残存長は右袖 (0.54) m、左袖 (0.38) mであり、右袖 に関しては角閃石凝灰岩を芯材として用いている。 住居内施設 壁周溝。 重複 W − 3・4 と重複しており、 新旧関係はH − 3→W − 3・4 である。 出土遺物 土師器坏 (1)・甕 (2・3)、こも編み石 (4~7) を図 示。 時期 土師器坏・甕から7世紀代後半と考えられる。 備考 住居跡東壁・竃煙道部については調査区拡 張の際に確認されたものであり、時間の制約上今回は住居跡範囲の確認のみとした。

H-4 (Fig. 8, PL. 2 · 3)

位置 $X 190 \cdot 191$ 、 $Y 110 \cdot 111$ グリッド **主軸方向** $N - 102^\circ - W$ 規模 長軸 4.58 m、短軸 (4.46) m、壁 現高 0.42 m。 **面積** 15.62 m **床面** ほぼ平坦で中央部に硬化面が広がる。 **竜** 西壁やや南側に位置する。確認長 (0.79) m、燃焼部幅 0.42 m。残存状況は悪く煙道部はW - 1 によって消失している。袖は右袖に構築材である灰黄褐色粘質土が僅かに残るのみで左袖は構築材も残っていない。焚口周辺の床面は若干硬化しており、火床面は緩く窪むだけで焼土・灰は確認されなかった。 **住居内施設** 柱穴 4 基、壁周溝。 **重複** A - 1、W - 1 と重複しており、新旧関係は $H - 4 \rightarrow A - 1 \rightarrow W - 1$ である。 **出土遺物** 少量である。本住居跡に帰属すると考えられる土師器坏が竃内から出土したが小片であるため図示し得なかった。 **時期** 出土遺物が皆無に等しく時期判別が困難であるが、竃内から出土した土師器坏小片や床面・柱穴等の住居構造、覆土状況をみると7世紀代に収まるものと考えられる。 **備考** 覆土上層はA - 1の掘り方覆土であり非常に硬化している。南壁はW - 1 によって消失。

H-5 (Fig. 9 · 15 · 16, PL. 3 · 15)

位置 X 195·196、Y 113 グリッド **主軸方向** N - 2°-W **規模** 長軸 3.86 m、短軸 2.94 m、壁現高 0.31 m。 **面積** 8.16 m **床面** ほぼ平坦で中央部に硬化面が広がる。 **電** 北壁やや東よりに位置する。確認長(0.72) m、燃焼部幅 0.62 m。天井部は完全に崩落しており、構築材は灰黄褐色の粘質土を使用している。火床面は緩く窪み、 焚口周辺には焼土・灰が散っている。袖は確認されなかった。内部には角閃石安山岩を角柱状に加工した支脚が立ち、上部に坏(1)を天地逆に被せて竃に掛けた甕をしっかりと支えるようにしてある。支脚と小皿の間には

ズレないように粘土で接着されており、火を受けて焼土化している。 **出土遺物** かわらけ状の坏 $(1 \sim 3)$ ・高台埦 $(4 \cdot 5)$ 、瓦、雁又鏃 (6)。 **時期** 小皿・高台埦から 10 世紀代後半と考えられる。

H-6 (Fig. 9 · 16, PL. 3 · 6)

位置 X 193、Y 108·109 グリッド **主軸方向** N - 90°-E **規模** 長軸 3.62 m、短軸 3.08 m、壁現高 0.41 m。 面積 8.71 ㎡ **床面** ほぼ平坦で中央部に硬化面が広がる。 **電** 東壁南隅に位置する。確認長 1.18 m、燃焼部幅 0.43 m。内部には石英閃緑岩を角柱状に加工した支脚 (5) が立つ。火床面は緩く窪み、焚口周辺には焼土・灰が散っている。袖は確認されなかった。 住居内施設 なし 出土遺物 灰釉陶器小皿(1)、土師質高台埦(2・3)・羽釜(4)。 時期 出土遺物から 11 世紀前半と考えられる。

A-1 (Fig.10, PL. 3)

位置 X 190⋅191、Y 107 ~ 113 グリッド **主軸方向** N − 3°−W **規模** 長さ (23.80) m 最大幅 (6.38) m **形状等** 中央部は若干の凹凸がみられるがほぼ平坦で西側と東側に側溝が付属する。道路面は周辺部の地表 から一段掘り込まれており、北から南へ緩やかに傾斜している。W-1から南側に関しては遺構確認時の掘削に よって道路面と西側側溝が残存するのみである。 硬化面 側溝部分を除きほぼ全域で検出。調査区北壁付近で は硬化面上で砂礫が敷設された状況が確認でき、他の箇所でも部分的に砂礫が残る。砂礫敷設面は硬く締まって おり最終段階の路面であると考えられる。また場所によっては硬化した黒褐色土の下に地山である黄褐色土の硬 化面もみられ、東側側溝脇の段上にも若干の硬化面の拡がりがみられる。H – 4と重複する箇所は他と同様に硬 化面が構築されており、H-4土層断面でも確認できる。 **側溝** 西側側溝は断面が浅いレンズ状で調査区北壁 から南壁に掛けて断続的に確認できる。東側側溝については当初 A-1 に関連しない別遺構と考えたが土層断面 観察での上層からの掘り込みや別遺構と裏付ける根拠を見出すことができないため、今報告ではA-1に付属す る側溝として記載した。断面U字状を呈し、調査区北壁からW-1までの間でのみ確認された。 **掘り方** 土層 断面観察から道路面は非常に硬化した暗褐色土で構成されており、下層は暗褐色土と地山である黄褐色砂質土が 混じる。また遺構面観察からは補修等の痕跡は確認されなかった。 **重複** H-4、W-1・6、D-12、D B-1と重複しており、新旧関係はH-4→A-1→W-1・6、D-12、DB-1である。 **出土遺物** 土 師器・須恵器・瓦等の破片が出土しているが本遺構の年代を示すような遺物は確認できなかった。 時期 出土 遺物からは時期が特定できないため他遺構との重複関係からH-4埋没後(7世紀以降)から中世(W-1)の 間に位置づけたい。

W-1 (Fig.11 · 16, PL. 4 · 6)

位置 X 189~195、Y 109·110 グリッド **主軸方向** N − 83° − W **規模** 長さ(23.19) m 最大幅 上幅4.49 m、下幅 2.28 m 深さ 1.18 m **形状等** 断面逆台形。底面は非常に硬化し、東から西へ向かって緩やかに傾斜する。重複 H − 2 · 4、A − 1、W − 3 · 4、D − 11、D B − 1 ~ 3、P − 10、1 号火葬跡と重複しており、新旧関係はH − 2 · 4、A − 1、W − 3 · 4、D − 11 · 12、P − 10、1 号火葬跡→W − 1 → D B − 1 ~ 3 である。出土遺物 少量であるが、覆土中よりかわらけ(1)、五輪塔水輪(2)、上層からは馬歯が数点出土している。時期 覆土の状況・出土遺物から中世と考えられる。 備考 土層断面観察で埋没時に数回の流水の痕跡あったと確認できる。蒼海城の堀跡か。

W-2 (Fig.12, PL. 4)

位置 X 196、 $Y 109 \sim 113$ グリッド 主軸方向 N-8°-E 規模 長さ (17.45) m 最大幅 上幅 (1.07) m、下幅 (0.80) m 深さ (0.71) m **形状等** 南北方向に直線的に走行する。部分的な検出のため全体の断面形状は不明だが現状からは逆台形と推測される。 **重複** W-5、D-5、I-1と重複しており、新旧関係はW-5、D-5、 $I-1 \rightarrow$ W-2 である。 出土遺物 少量である。土師器小片。 時期 覆土の状況から中世と考えられる。 備考 蒼海城の堀跡か。

W-3 (Fig.12, PL. 4)

W-4 (Fig.12, PL. 4)

位置 $X 191 \sim 194$ 、 $Y 108 \sim 113$ グリッド **主軸方向** $N-30^{\circ}-W$ 規模 長さ (26.36) m 最大幅 上幅 2.20 m、下幅 1.83 m 深さ 0.20 m **形状等** 断面は浅いレンズ状を呈する。底面は所々凹凸があるが概ね平坦 である。調査区北側で段を有する。 **重複** $H-2\cdot3$ 、W-1、D-11 と重複しており、新旧関係は $H-2\cdot3$ 、 $D-11\rightarrow W-3\rightarrow W-1$ である。 出土遺物 少量である。 時期 覆土の状況から中世と考えられる。

位置 X 192 ~ 194、Y 110 ~ 112 グリッド **主軸方向** N − 33° − W **規模** 長さ(10.57)m 最大幅 上幅 1.79 m、下幅 1.40 m 深さ 0.21 m **形状等** 断面は浅いレンズ状を呈する。底面は所々凹凸があるが概ね平 坦である。 **重複** H − 2 · 3、W − 1 と重複しており、新旧関係はH − 2 · 3 → W − 3 → W − 1 である。 **出** 土遺物 少量である。 時期 覆土の状況から中世と考えられる。

W-5 (Fig.12, PL. 4)

位置 X 194 ~ 196、Y 109 ~ 113 グリッド **主軸方向** N − 28°−W **規模** 長さ(17.25) m 最大幅 上幅 0.73 m、下幅 0.52 m 深さ 0.12 m **形状等** 断面は浅いレンズ状を呈する。底面は所々凹凸があるが概ね平 坦である。 **重複** D − 2 · 6 と重複しており、新旧関係はD − 2 · 6 → W − 5 である。 **出土遺物** 少量である。 **時期** 覆土の状況から中世と考えられる。

W-6 (Fig.12)

位置 X 191、Y 112・113 グリッド 主軸方向 N - 7°-E 規模 長さ (3.34) m 最大幅 上幅 0.77 m、下幅 0.40 m 深さ 0.17 m 形状等 断面は浅い U 字状を呈する。底面はほぼ平坦である。 重複 A - 1 と重複しており、新旧関係はA - 1 →本遺構である。 出土遺物 出土遺物が少量である。 時期 覆土の状況から中世と考えられる。

DB-1 (Fig.13, PL. 4)

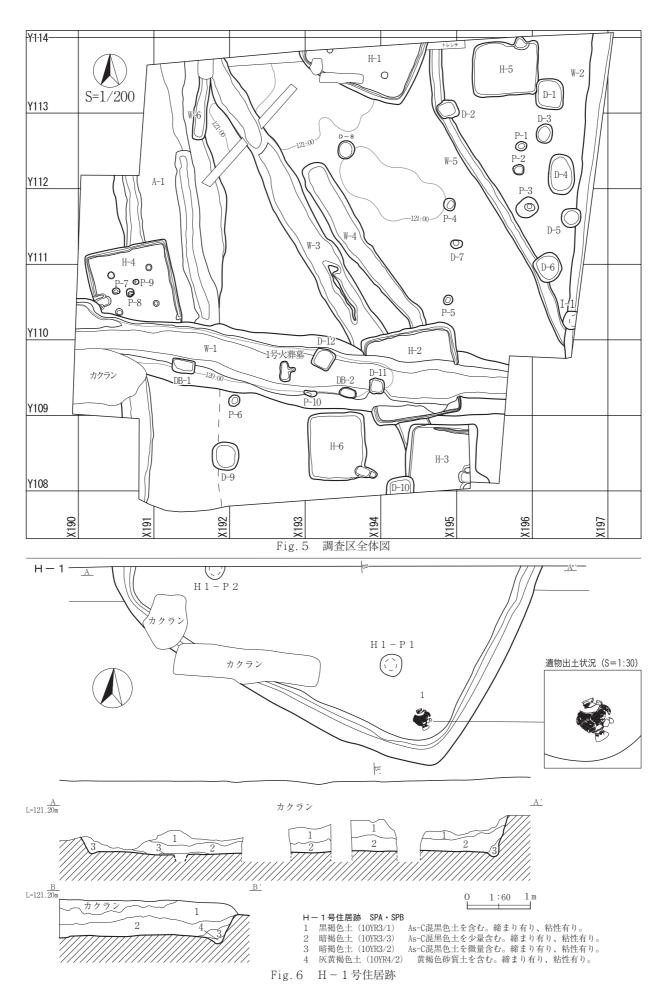
位置 X 191、Y 109 グリッド 主軸方向 N - 98°- E 規模 長軸 1.21 m、短軸 0.75 m、深さ 0.37cm。 形状等 隅丸長方形。 人骨出土状態 残存状態は悪く、頭部のみ出土。右側頭部欠損。 埋葬状態 被葬者の頭位は東で、顔面部を南側に向け左側を下にした横臥屈葬であると考えられる。 重複 W - 1 と重複しており、新旧関係は人骨の出土状況からW - 1 \rightarrow D B - 1 である。 出土遺物 なし。 時期 形状・埋葬形態等から中世と考えられる。

DB-2 (Fig.13, PL. 4)

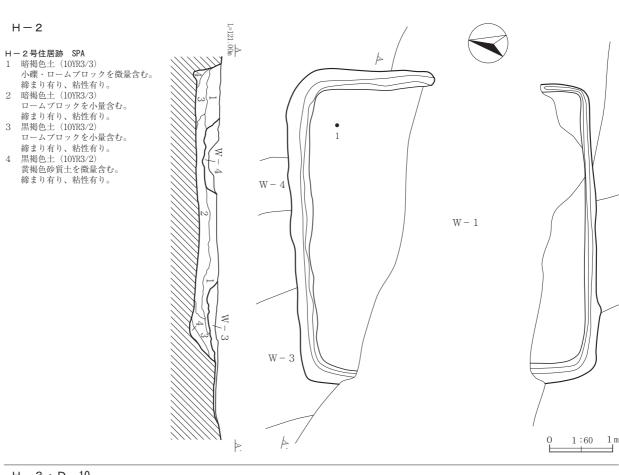
位置 X 193、Y 109 グリッド **主軸方向** N − 103° − E **規模** 長軸 0.91 m、短軸 0.52 m、深さ 0.27cm。 形状等 隅丸長方形。 **人骨出土状態** 残存状態は不良。右側頭部が土圧によって崩落。 **埋葬状態** 被葬者の頭位は西で、顔面部を北側に向け左側を下にした横臥屈葬であると考えられる。 **重複** W − 1 と重複しており、新旧関係は人骨の出土状況からW − 1 → D B − 2 である。 **出土遺物** なし。 時期 形状・埋葬形態等から中世と考えられる。

1号火葬跡(Fig.13·16、PL.4)

位置 X 192、Y 109 グリッド 張出部軸方向 N - 85°-E 規模 長方形土坑部長軸 1.08 m・短軸 0.54 m、 張出部長軸 0.31 m・短軸 0.22 m、深さ 0.13cm。 形状等 長方形土坑部と張出部で構成され、平面「T」字状を呈する。W - 1 の掘り込みによって大部分が消失しており底面のみである。長方形土坑部底面は平坦であり、 張出部と接する壁面で被熱痕跡が僅かであるが確認できる。張出部底面は長方形土坑部より外側に向かって緩や かに上がる。 人骨出土状態 本遺構の覆土は炭化物・灰を主体に少量の焼骨が混在していることが確認された。 残存状況は悪く、部位については小片であるため特定できない。 重複 W - 1 と重複しており、新旧関係は覆 土状況からW - 1 → 1 号火葬跡である。 出土遺物 古銭(元祐通宝、1)が覆土中より出土。被熱痕跡は確認 できない。 時期 古銭・重複関係から中世と考えられる。



-10 -



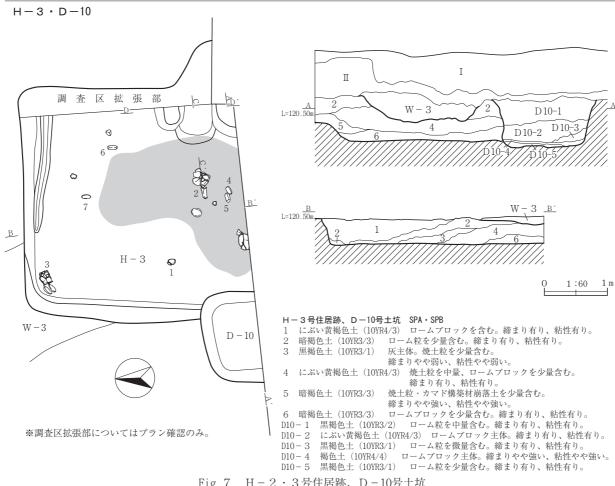


Fig. 7 H-2·3号住居跡、D-10号土坑

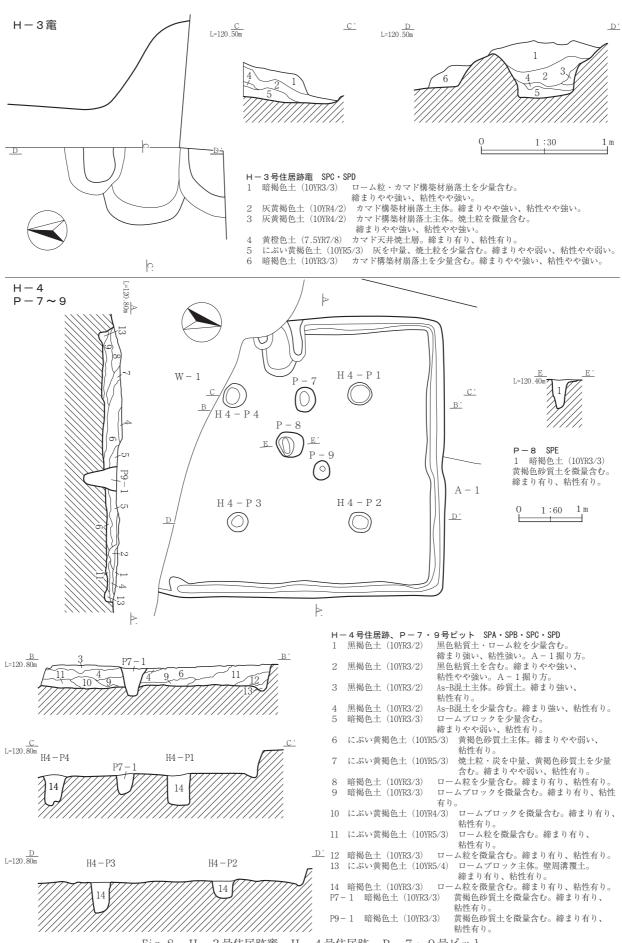
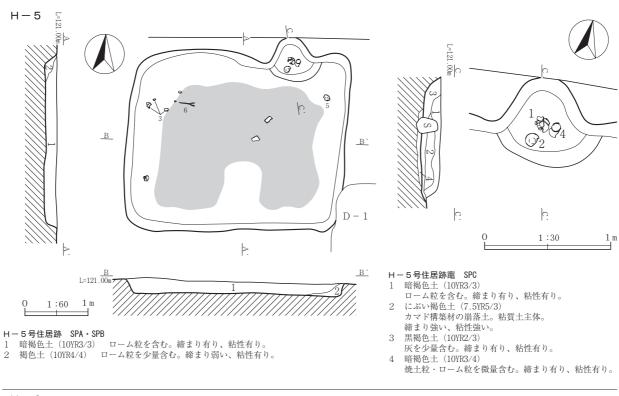


Fig. 8 H-3号住居跡電、H-4号住居跡、P-7~9号ピット



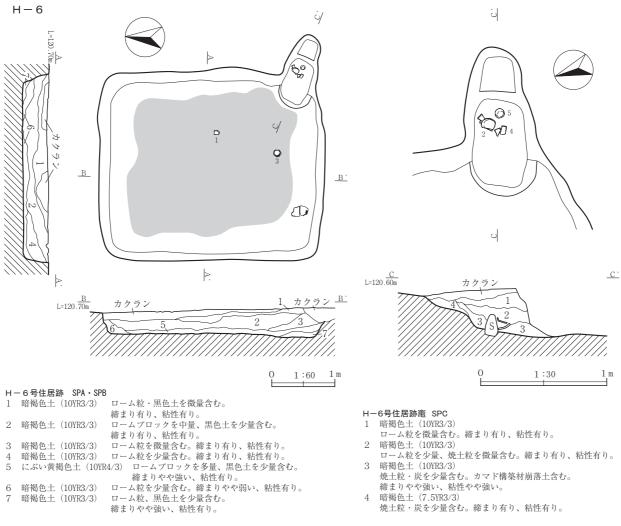


Fig. 9 H-5·6号住居跡

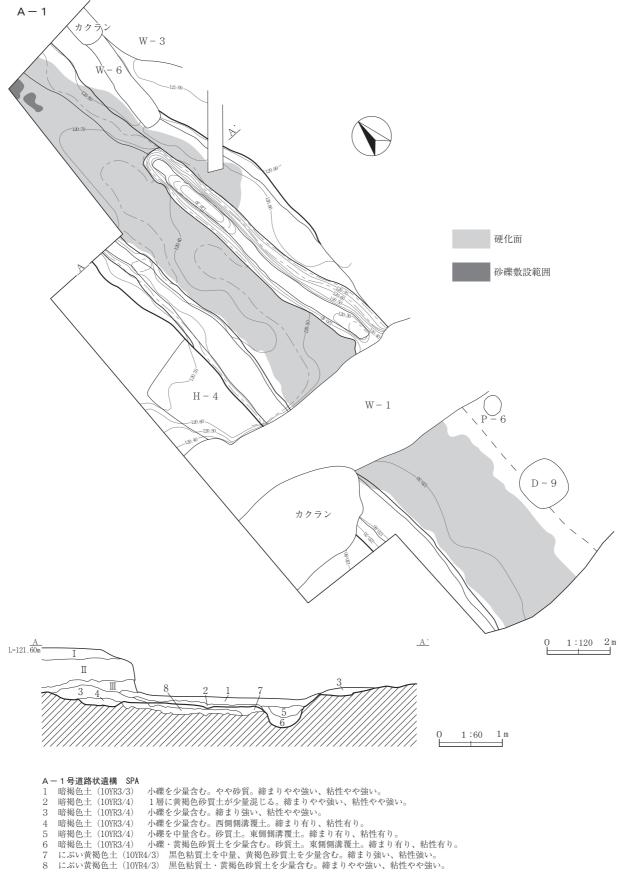


Fig.10 A-1号道路状遺構

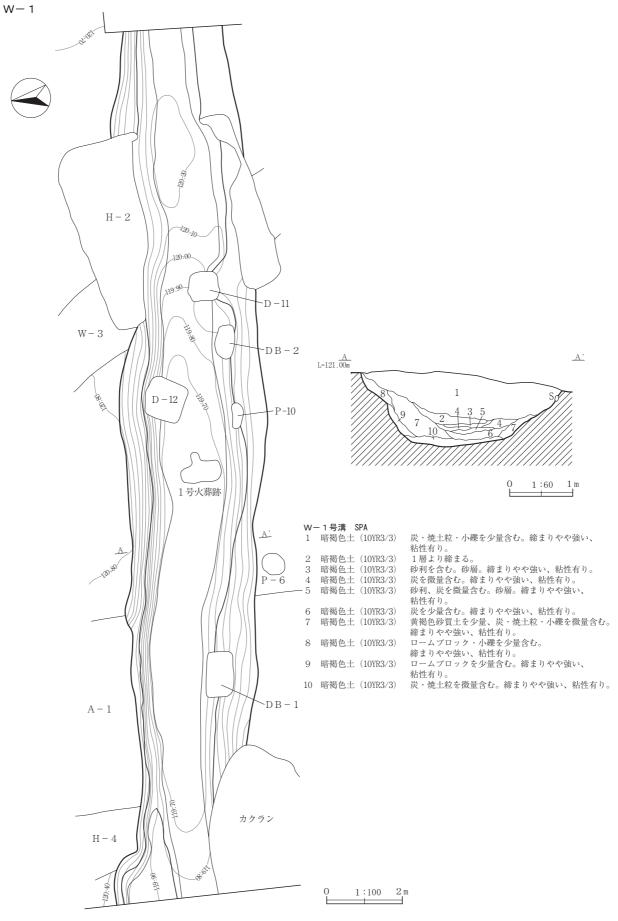
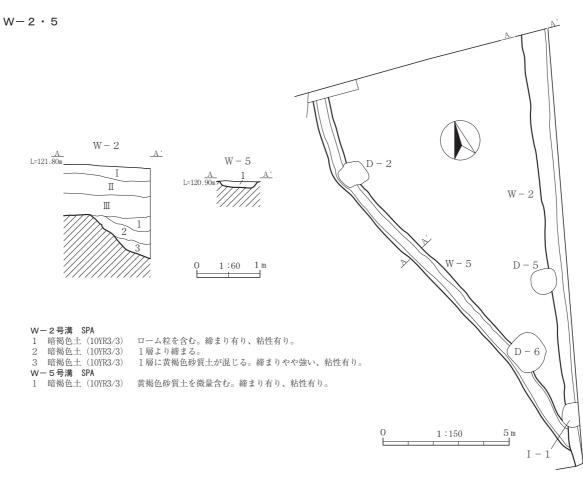


Fig.11 W-1号溝



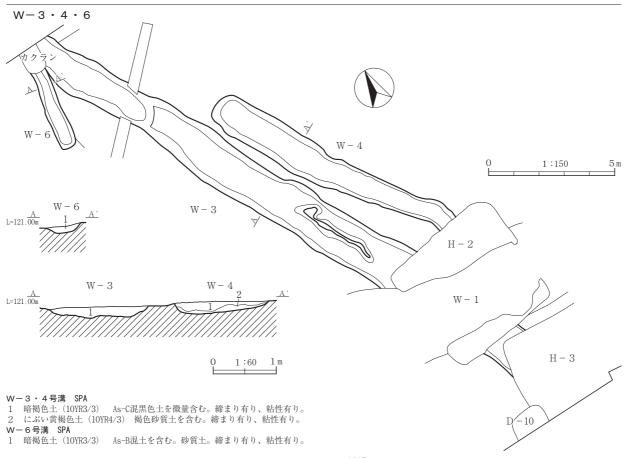
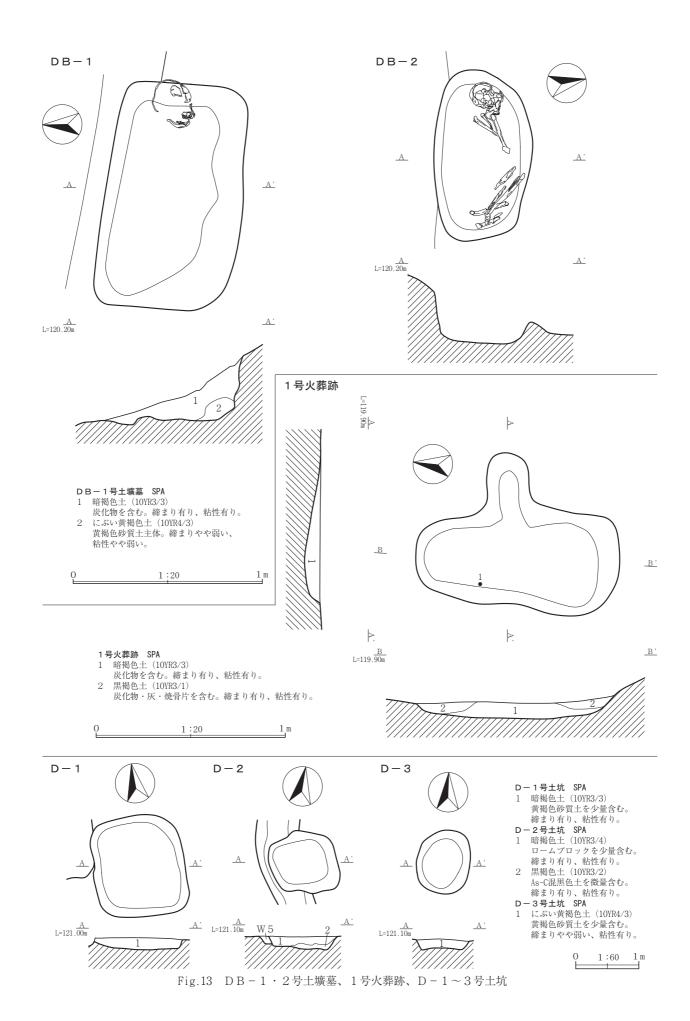


Fig.12 W-2~6号溝



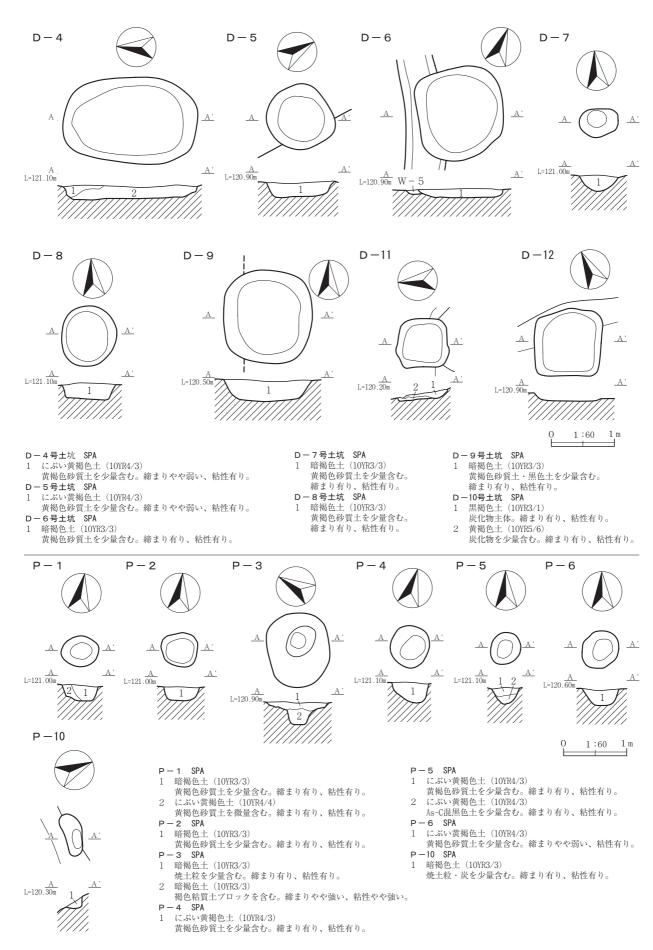
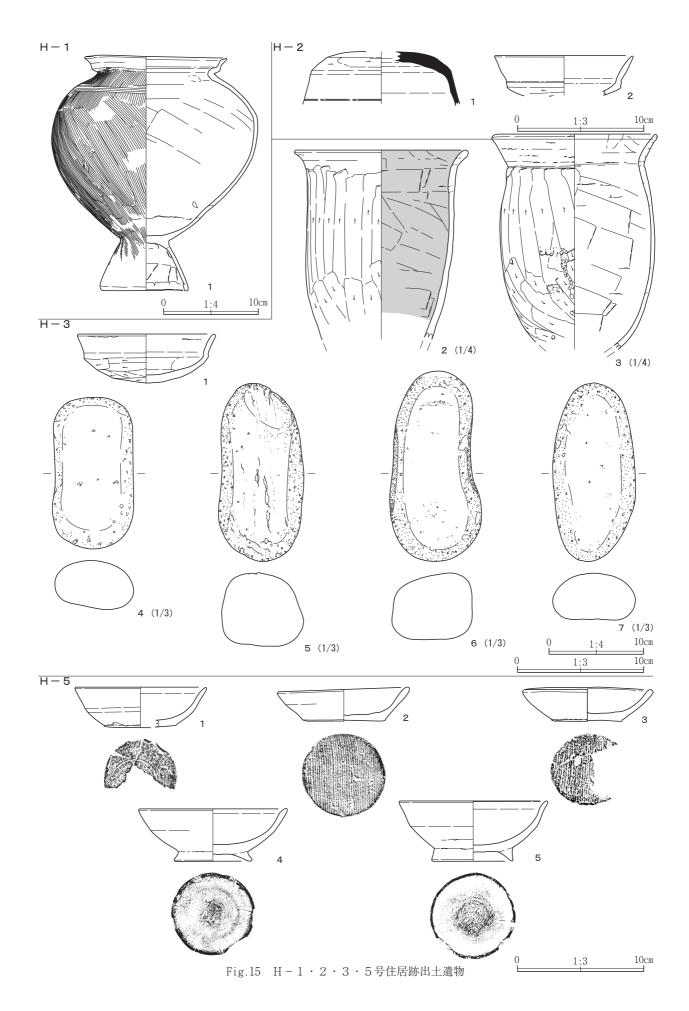


Fig.14 D-4~12号土坑、P-1~6·10号ピット



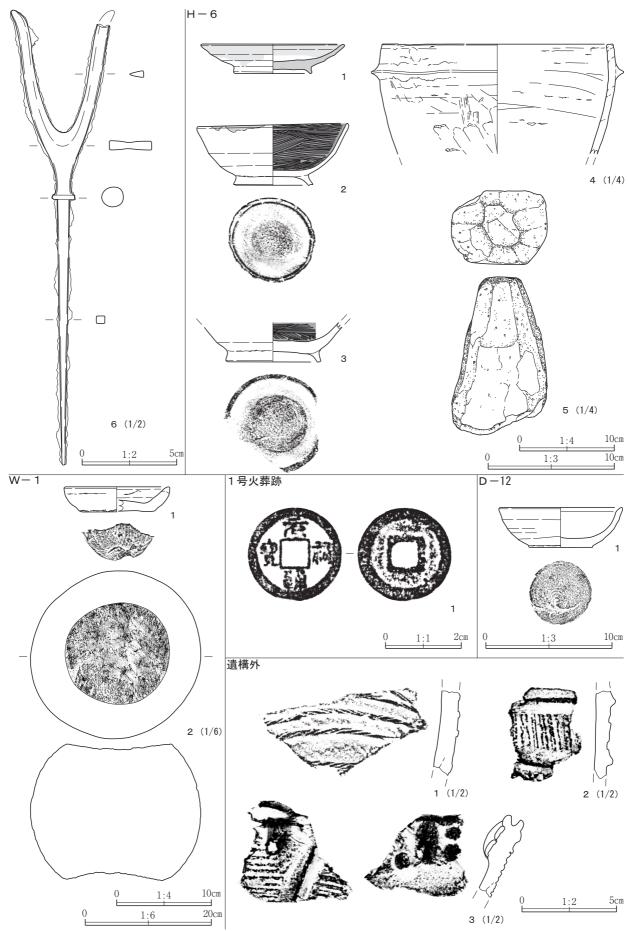


Fig.16 H-5·6号住居跡、W-1号溝、1号火葬跡、D-12号土坑、遺構外出土遺物

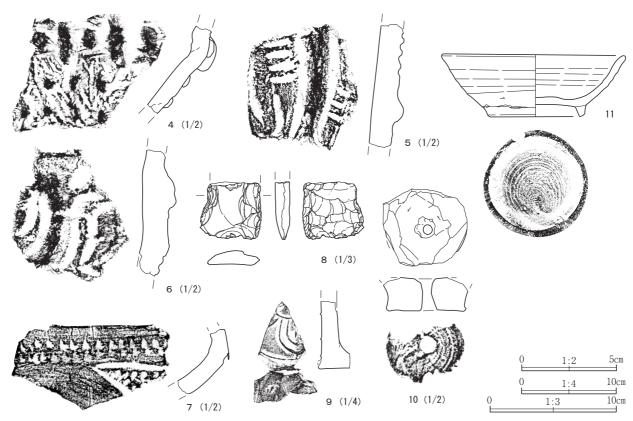


Fig.17 遺構外出土遺物

Tab.	3 出土	遺物観察	表								
H一 音	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成	・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	S字口縁台付甕	15.0	9.1	24.9	白·黒色粒、 黒雲母、石英	良好	にぶい黄橙色		同部縦位ハケメ及び横位ハケメ、 □縁部ヨコナデ、以下ハケナデ。 デ。	胴部中位一部欠損。 外面甕部煤付着。
H – 2	2		•			•	•				
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成	・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器 蓋	-	-	(4.3)	白色粒	良好	灰色		こよるヨコナデ 体下部へラケズリ。 こよるヨコナデ 体下部へラケズリ。	体部1/8残存。
2	覆土	土師器 坏	(10.8)	-	(3.2)	赤色粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ 内面口縁部~底部ヨコ		小片。
н — 3	3										
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成	・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器 坏	10.8	-	3.9	白色粒鉱物	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ 加 内面口縁~底部ヨコナデ		1/2残存
2	床面直上	土師器 甕	17.9	-	(20.0)	白・灰色粗粒、 チャート、石英	良好	にぶい黄橙 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、J 下部斜位ヘラケズリ。F	下部欠損 内面煤付着	
3	床面直上	土師器 甕	17.1	-	(22.8)	白、灰色粒、 黒雲母	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、」 ケズリ。内面口縁部ヨ	胴部一部と底部欠損 外面下半竃粘土付着	
番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	色調	重さ(g)	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
4	床面直上	石製品 こも編石	12.0	6.4	4.1	粗粒安山岩	-	-	566.5	-	完存。
5	床面直上	石製品 こも編石	14.2	6.8	5.9	粗粒安山岩	-	-	861.3	-	完存。
6	床面直上	石製品 こも編石	15.1	7.3	5.4	粗粒安山岩	-	-	918.1	-	完存。
7	床面直上	石製品 こも編石	14.2	6.7	3.8	粗粒安山岩	-	-	529.0	-	完存。
H — 5	5										
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成	・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	竃内支脚上	土師質 坏	10.3	5.7	(3.2)	白・赤色粒	良好	にぶい黄橙色	外面口縁~体部ロクロル 内面口縁~底部ロクロル	こよるヨコナデ、底部回転糸切り。 こよるヨコナデ。	1/2残存。かわらけ状
2	竜	土師質 坏	10.3	6.5	2.7	黒色粒	中性焔	浅黄色	内面口縁~底部ロクロル		口縁部1/3欠損。 かわらけ状。
3	竜	土師質 坏	10.0	5.5	2.7	赤色粒	良好	にぶい黄橙色	内面口縁~底部ロクロル		2/3残存。かわらけ状
4	床面直上	土師質 高台埦	(11.5)	6.0	4.2	白·赤色粒、 黒雲母	良好	橙色	付高台。内面口縁~底部	こよるヨコナデ、底部回転糸切り後 ポロクロによるヨコナデ。	完形。
5	床面直上	土師質 高台埦	11.6	6.3	4.8	黒・橙色粒	中性焔	にぶい黄橙色		こよるヨコナデ、底部回転糸切り後 ボロクロによるヨコナデ。	口縁部1/8~底部残存
番号	出土位置	種別、器種	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	焼成	色調	重さ(g)	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
6	床面直上	鉄製品 雁又鏃	24.2	(4.9)	1.0	-	-	-	42.1	-	右先端部欠損。

н-	6												
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調		器形、成	・整形、文様等の特徴		残存状況、備考
1	覆土	灰釉陶器 皿	(11.2)	(6.0)	2.3	黒色粒	良好	にぶい黄橙色			こよるヨコナデ、底部 こよるヨコナデ。内外		大原2号窯式。 1/3残存。
2	竜	土師質 高台埦	11.7	5.8	4.9	白・赤色粒、 鉱物	良好	にぶい黄橙色、 黒色	外面口縁~体部	いロクロい	こよるヨコナデ、底部 ポロクロによるヨコナ	回転糸切り後	2/3欠損。黒色処理。
3	床面直上	土師質 高台埦	-	7.0	(3.1)	白·赤色粒、 黒雲母、鉱物	良好	にぶい黄橙色、 黒色	外面体部ロクロ	によるこ	ヨコナデ、底部回転糸 ポロクロによるヨコナ	切り後	底部~高台2/3残存。 黒色処理。
4	竜	土師質 羽釜	(24.3)	-	(11.6)	白·灰色粒、 黒雲母	酸化焰	にぶい黄橙色		いロクロラ	トデ後、鍔以下を縦・		口縁~胴上部片。 内外面煤付着。
番号	出土位置	種別、器種	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	色調	重さ(g)		器形、成·整形、文	様等の特徴	残存状況、備考
5	竜	石製品 支脚	16.8	10.1	7.8	石英閃緑岩	-	-	987.2		上端部から放射状に 8面作出。	平らな面を	完形。
w-	1							!	!				
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調		器形、成	・整形、文様等の特徴		残存状況、備考
1	覆土	かわらけ	(8.2)	(6.0)	(2.0)	白·橙色粒少量	良好	にぶい黄橙色			こよるヨコナデ、底部 こよるヨコナデ。	回転糸切り。	1/3残存。
番号	出土位置	種別、器種	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	色調	重さ(g)		器形、成·整形、文	様等の特徴	残存状況、備考
2	覆土	石製品 五輪塔 水輪	16.0	26.6	21.6	粗粒安山岩	-	_	1580		_		完形。
D-1	D-12												
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調		残存状況、備考			
1	覆土	土師質 坏	(9.7)	5.0	3.2	黒・赤色粒、 黒雲母	良好	明黄褐色	外面口縁~体部ロクロによるヨコナデ、体下部ユビナデ、 底部回転糸切り。内面口縁~底部ロクロによるヨコナデ。				口縁1/4~底部残存。
1号:	火葬跡												
番号	出土位置	銭種名	王	名		初鋳年代		材質	外径	穿	幅 厚さ	重量	残存状況、備考
1	覆土	元祐通寶	46	宋		1086年		銄	24.50mm	7.00	Omm 1.50mm	3.6 g	完存。被熱痕無し。
遺構	外												
番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調		器形、成	・整形、文様等の特徴		残存状況、備考
1	表採	縄文土器 鉢	-	-	(4.4)	白色粒、黒雲母	良好	にぶい黄橙色	斜位線刻隆带文	及び縄す	τ.,		胴上部片。 諸磯 b
2	表採	縄文土器 鉢	-	-	(4.6)	白・灰色粒、 石英、チャート	良好	褐色	隆帯による区画	i内斜位》	北線充填 。		口縁下部片。 諸磯 b
3	表採	縄文土器 鉢	-	-	(4.4)	石英、チャート、 黒雲母	良好	にぶい褐色			疑位隆帯及び粘土瘤に 立集合沈線文に粘土瘤		口縁部片。 諸磯 c
4	表採	縄文土器 鉢	-	-	(5.2)	白・黒色粒、 チャート	良好	明褐色	斜位集合沈線文	に粘土症	富による棒状・ボタン	状貼付。	口縁下部片。 諸磯 c
5	表採	縄文土器 鉢	-	-	(6.6)	白・黒色粒、 石英、チャート	良好	明褐色	隆帯及び沈線文				胴部片。 中期
6	表採	縄文土器 鉢	-	-	(6.6)	白・黒色粒、 石英、チャート	良好	明褐色	隆帯及び沈線文。				胴部片。 中期
7	表採	縄文土器 鉢	-	-	(3.9)	石英、チャート、 黒雲母	良好	黄橙色	棒状工具による	刺突文2	2段、外面磨り消し。		肩部片。 後期
番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	色調	重さ(g)		器形、成・整形、文	様等の特徴	残存状況、備考
8	表採	石製品 打製石斧	(4.5)	4.9	1.2	黒色頁岩	-	-	34.0		_		上部欠損。短冊形。
番号	出土位置	種別、器種	全長(cm)	広端幅 (cm)	狭端幅 (cm)	胎土	焼成	色調		器形、成	・整形、文様等の特徴		残存状況、備考
	ttr 440	T 4T	(7.0)			力力地 	PSUF SECL	mir not de					70tr LL.

Tab 5	#: ==	. +	⊹.	L° "	ト計測表
iab. 5	廾尸	· I	川.・	ヒツ	下 前 側 衣

瓦 丸瓦

土製品 紡錘車

種別、器種

種別、器種

(7.2)

14.3

径(cm) 厚さ(cm) 孔径(cm

口径(cm)底径(cm)高さ(cm

7.0

0.8

5.0 小礫

番号

番号

11

表採

出土位置

表採

出土位置

表採

Tab. 5	井戸・土坑・ピット	·計測表					
遺構名	位 置	長軸(m)	短軸(m)	深さ (m)	形状	出 土 遺 物	備考
I - 1	X196, Y110	0.97	(0.69)	-	円形		底部は狭所の為確認できず。
D - 1	X196, Y113	1.62	1.57	0.19	楕円形		
D - 2	X194 · 195、Y112 · 113	1.12	1.01	0.21	隅丸方形		
D - 3	X196、Y112	1.01	0.84	0.18	隅丸方形		
D - 4	X196、Y112	2.11	1.37	0.23	楕円形		
D - 5	X196、Y111	1.10	1.05	0.25	楕円形		
D - 6	X196、Y110·111	1.51	1.42	0.14	円形		
D - 7	X194 · 195、Y111	0.62	0.45	0.26	隅丸方形		
D - 8	X193、Y112	1.01	0.88	0.27	円形		
D - 9	X191 · 192、Y108	1.49	1.41	0.36	円形		
D - 10	X194、Y107·108	1.48	(0.90)	0.76	楕円形		
D-11	X193 · 194、Y109	0.85	0.80	0.19	隅丸方形か		
D - 12	X 193、 Y 109	1.10	1.08	0.13	隅丸方形	土師質坏	
P - 1	X195、Y112	0.60	0.50	0.26	隅丸方形		
P - 2	X195、Y112	0.58	0.54	0.22	円形		
P - 3	X195 · 196、 Y111	1.17	0.99	0.36	円形		
P - 4	X194、Y111	0.60	0.65	0.33	楕円形		
P - 5	X194、Y110	0.50	0.49	0.27	円形		
P - 6	X192、Y109	0.59	0.58	0.27	円形		
P - 7	X190、Y110	0.39	0.32	0.44	円形		
P - 8	X190、Y110	0.43	0.40	0.46	円形		
P - 9	X190、Y110	0.31	0.25	0.52	円形		
P-10	X 193、 Y 109	0.68	0.32	0.19	不整形		

白色粒、石英

胎土

胎土

焼成

焼成

酸化焰

堅緻

良好

色調

にぶい黄橙色

色調

浅黄色

重さ(g)

31.7

暗灰色

器形、成・整形、文様等の特徴 外面口縁~体部ロクロによるヨコナデ、体下部ヘラケズリ、 底部回転糸切り。付高台のちヨコナデ。 内面口縁~底部ロクロによるヨコナデ。

器形、成・整形、文様等の特徴

上面ロクロナデ、側面ユビナデ。 回転糸切り。中央部両側から穿孔

残存状況、備考

坏等からの転用品。 残存状況、備考

破片。

VI まとめ

今回の調査では古墳時代前期、古墳時代後期、平安時代、中世に亘る遺構が確認された。ここでは確認された遺構・遺物に若干の考察を加え、まとめとしたい。

古墳時代前期

本遺跡は榛名山東南麓の相馬ヶ原扇状地末端で牛池川の開折する帯状低地の南側台地に立地する。牛池川並びに本遺跡南西方向の染谷川沿いには古墳時代前期の集落が点在しており、元総社蒼海遺跡群地域では特に牛池川に近い所で確認されている。本遺跡で確認されたH-1もその一群であると考えられる。当地域は牛池・染谷川の帯状低地を生産域とし、河川に近い台地上を居住域としていたと考えられる。

古墳時代後期

本遺跡で確認された概期の遺構は $H-2\cdot3\cdot4$ であり、全て7世紀代の住居跡と考えられる。H-2はW-1が中央部を横断している為、大部分の壁・竃・遺物が消失している。遺物は少ないが覆土中より出土した須恵器蓋から当住居跡は7世紀後半と位置づけた。H-3は調査区南東隅に位置し、住居跡南側約 1/3 が調査区外となる。本住居跡は他住居跡と比べ出土遺物が多く坏(1)・甕($2\cdot3$)・こも編み石($4\sim7$)が出土した。坏は須恵器坏蓋を模倣したと考えられる所謂「模倣坏」の系譜を引くものである。口縁部との境に稜をもち、口縁部は緩やかに外反する。底部は箆削りを施した丸底状を呈している。甕はやや小ぶりで、胴部が直立(2)、やや膨らむ(3)の若干の差異がみられるが概ね長胴甕の範疇にある。坏・甕から7世紀後半と位置づけた。H-4は遺跡周辺ではあまり見られない西壁に竃を配する住居跡である。遺物が皆無に等しく時期判別が困難ではあるが竃内の遺物や調査段階での状況から7世紀代に帰属すると考えられる。

平安時代

平安時代の住居跡は元総社地区では数多く確認されており、広範囲にわたって分布している。本遺跡で確認された $H-5\cdot 6$ は 10 世紀後半~ 11 世紀前半の住居跡であり平安時代後期にあたる。H-5 ではかわらけ状の坏($1\sim 3$)、高台埦($4\cdot 5$)、雁又鏃(6)が出土している。かわらけ状の坏は口径約 10cm、高さ約 3 cm とほぼ同一規格であり、(1)に関しては竃内支脚上に被せた状態で出土している。H-6 では灰釉陶器皿(1)、埦($2\cdot 3$)、羽釜(4)が出土している。灰釉陶器皿は三日月高台の特徴(内面の内湾や外面の稜が弱い)、施釉方法(ツケガケ)、口端部の形状から大原 2 号窯式(10 世紀第 1 四半期)と考えられる。高台埦は内面に黒色処理・ミガキを施し、器肉がやや薄手で精巧さを感じる。羽釜は鍔・調整をみるとやや粗雑な印象を受ける。灰釉陶器の使用期間が長期であると考え、高台埦・羽釜から当住居跡を 11 世紀前半に位置づけた。

中世

本遺跡で確認された概期の遺構はW-1・2、DB-1・2、1号火葬跡、A-1である。W-1は調査区中央やや南側で東西に伸び、断面逆台形を呈し覆土状況・遺物から中世のものと考えられる。本遺跡南東側に隣接する宅地の周囲に土塁が巡っている。蒼海城のものと考えられているこの土塁は調査区外の東南部で直角に曲がっており、それぞれ南と東へと伸びている。W-1は土塁の東西方向と平行するように走行するため、あたかも堀(W-1)と土塁がセット関係のように思えてしまう。しかし土塁に関しては現況の表面観察のみで土塁の構造・W-1との関連がわかっておらず、蒼海城の堀に関してもある程度位置が解明されている城中央部と比べ、城域の北側にあたる本遺跡周辺では堀の位置は明確にされていない。堀(W-1)と土塁の構造・関係、蒼海城との関連については次年度以降の調査に期待し、今回調査結果ではW-1は中世の堀跡と評価したい。W-2は調査区東壁際に南北に走行する。今回の調査では堀の肩部のみの確認であり大部分は調査区外となる。南北に伸びるこの堀は前述の土塁・W-1と延長線上で交差する。交差部分は調査区外であるため性格・重複関係はわからない。

 $DB-1\cdot 2$ は隅丸長方形の土壙墓であり共通点が多い。頭・顔の位置に違いが見られるが共に横臥屈葬である。土壙墓の長軸はW-1の走行方向にほぼ合致する。このことはW-1埋没後に土壙墓が掘られたと考えられるが、遺構確認の段階ではW-1上に土壙墓の掘り込みプランは確認されていない。そのためW-1埋没途中の段階に掘り込まれたと推測される。人骨については宮崎重雄氏の鑑定によれば被葬者は共に壮年期($20\sim39$ 才位)の女性であるという。

1号火葬跡はW-1堀底確認の段階で炭化物を含んだT字状のプランとして確認された。群馬県内の中世火葬遺構については楢崎修一郎氏の研究があり、群馬県埋蔵文化財調査事業団が報告した事例を集成・分類している(楢崎 2007)。本遺跡で確認された遺構を楢崎氏の分類に照らし合わせると、火葬人骨・炭化物・焼土を伴う「火葬跡」で長方形土坑の長辺に張出しを有しT字状を呈する「タイプⅡ」に形態分類される。この集成によれば火葬跡:95.9%、タイプⅡ:32.3%と検出された割合が高く、前橋・高崎を中心とした平野部に広く分布している。また拾(収)骨方法でも鯖田豊之氏の研究を基にほぼ全ての焼骨を拾(収)骨する「東日本タイプ」と、主要な部位のみを拾(収)骨し他は残置する「西日本タイプ」に分類している(鯖田 1990)。本遺跡の火葬跡はその大部分をW-1により削平されており僅かに残存する火葬人骨・炭化物は少量である。これだけで判断するのは困難ではあるが注意深く観察すると残存する焼骨は小型のものが多くを占め、大型の部位は見当たらない。推測の域を出ないが「東日本タイプ」の範疇としたい。

調査区を南北方向に横断するように確認された道路状遺構であるA-1はH-6の埋没後(7世紀代)からW-1が掘られる(中世)までの間に築造・廃絶された遺構である。路面が地山硬化面、黒褐色土硬化面と硬化面上に敷設された砂礫敷きの3面あることからある程度長い期間に亘って使用されたことが窺える。周辺遺跡でも道路状遺構は確認されているが遺構検出面が浅いため上層からの削平等により断片的に分布している。そういった状況からルートとしては明確化されていない。

今回の調査で確認された蒼海城の堀と推定されるW-1と道路状遺構であるA-1は明確な報告ができず今後の調査課題としたい。蒼海城に関しては近年元総社地域での発掘調査の増加に伴い堀・郭等の範囲が解明されつつあり、今後W-1の評価も変わる可能性も考えられる。道路状遺構のルートの解明は当時の人々の生活を知る上で重要な意味を成す。特に元総社地区は上野国府・蒼海城が存在する特異の地域でありその重要性は増す。部分的に確認されたA-1も今後の周辺域での調査によって解明されるであろう。今後の調査・研究によって古代から上野国の中心地である元総社地域の歴史が解明されることを願いたい。

参考・引用文献

山崎 一 1978 『群馬県古城塁址の研究』上巻 群馬県文化事業振興会

山崎 一 1979 『日本城郭大系』第4巻 茨城·栃木·群馬 新人物往来社

坂口 一・三浦京子 1986 「奈良・平安時代の土器編年」『群馬文化』208 群馬県地域文化研究協議会

桜岡正信 1991 「7世紀以降の土師器坏の画期とその要因について」『群馬考古学手帳』Vol. 2 群馬土器観会

鯖田豊之 1990 『火葬の文化』 新潮社

中世土器研究会 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社

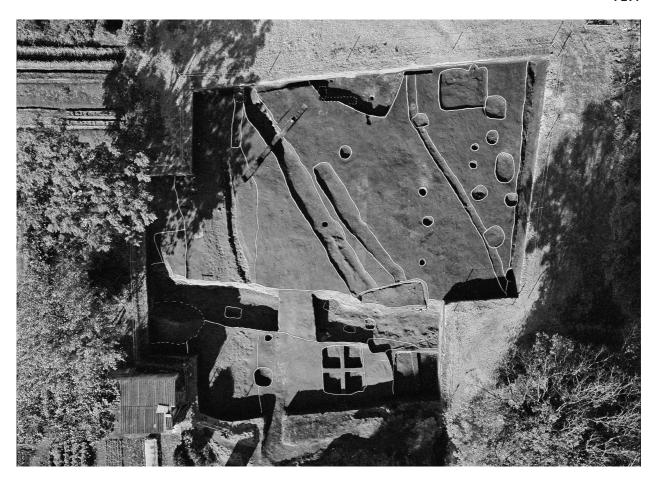
楢崎修一郎・石守 晃 2005 「群馬県出土人骨データベース」『研究紀要』23 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団

能登 建・小島敦子 2006 「関東地方の初期 S 字甕出土遺跡の立地について」『研究紀要』24 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団

楢崎修一郎 2007 「群馬県出土中世火葬遺構」『研究紀要』25 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

出土銭貨研究会 2009 『中世の墓と銭』第16回出土銭貨研究会資料

高崎市教育委員会 2009 『下佐野長者屋敷遺跡』



調査区全景 (上が北)



調査区全景 (上が東)

PL.2



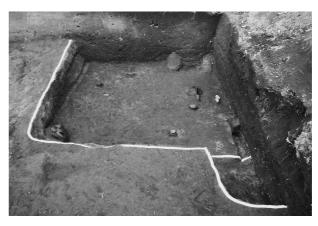
H-1号住居跡全景(南東から)



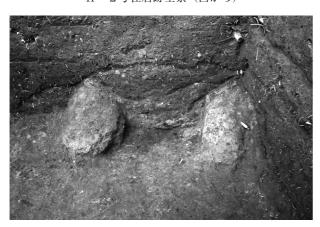
H-1号住居跡遺物出土状況(南東から)



H-2号住居跡全景 (西から)



H-3号住居跡全景(西から)



H-3号住居跡竃全景(西から)



H-3号住居跡遺物出土状況(北から)



H-3号住居跡遺物出土状況(南から)



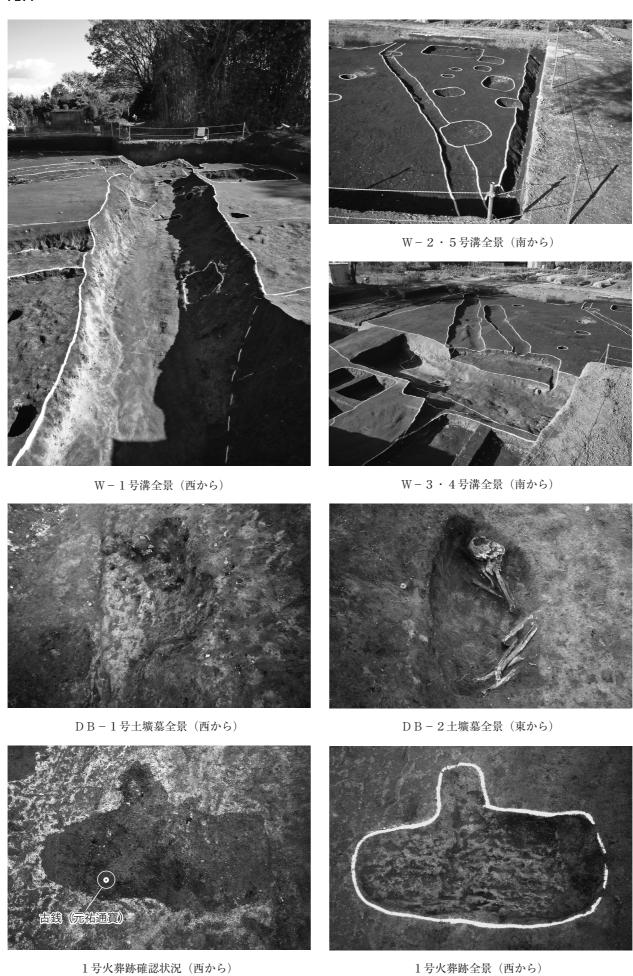
H-4号住居跡全景 (東から)

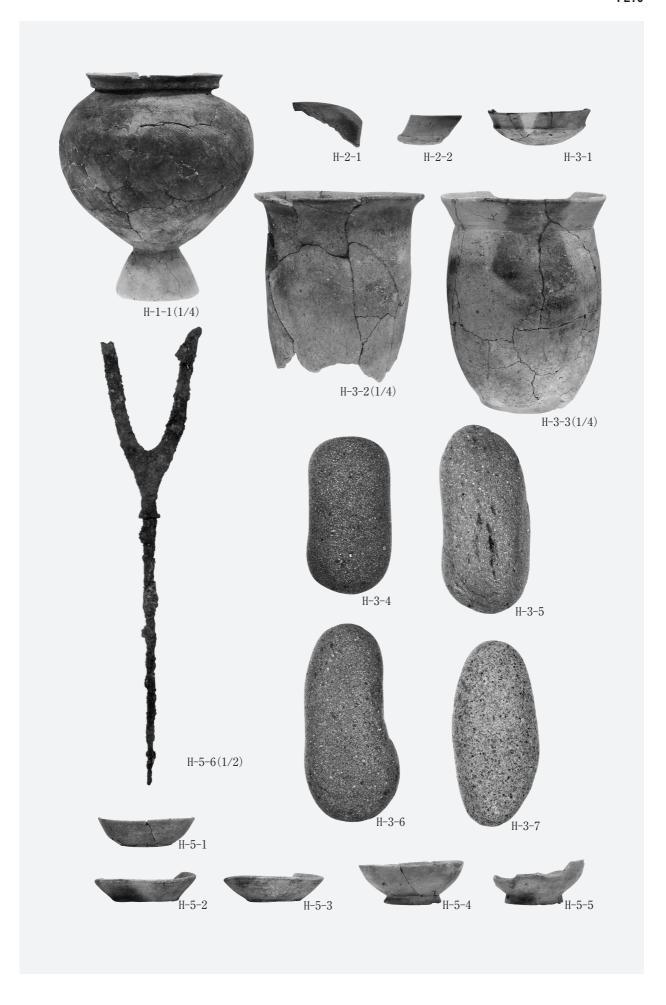


A-1号道路状遺構東側側溝全景(南から)

A-1号道路状遺構砂礫敷設状況 (東から)

PL.4







発 掘 調 査 抄 録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン (30)
書名	元総社蒼海遺跡群(30)
副 書 名	前橋市都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	神宮 聡・佐野 良平
編集機関	技研測量設計株式会社
発 行 機 関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
発行機関所在地	前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2010年3月12日

フリガナ	フリガナ	ם -	- F	位	置		調査面積	調査原因
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間		
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (30)	マエバシシソウジャマチソウジャ 前橋市総社町総社 3095-8ほか	10201	21A130-30	36° 23′ 24	139° 2′ 13	20091112 (20091204	570m²	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (30)	集落跡その他	古墳~平安時代中世	竪穴住居跡 6軒 道路跡 1条 堀・溝 6条 墓坑 2基 火葬跡 1基 井戸・土坑・ピット 23基	雁又鏃 灰釉陶器 須恵師 土 かわら塔 五古銭	古墳時代〜平安時代の 集落遺跡。 中世期の道路状遺構と 蒼海城の堀と推定される堀跡。 中世期の土壙墓・火葬 跡。

元総社蒼海遺跡群 (30)

2010年3月5日 印刷 2010年3月12日 発行

発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前橋市三俣町2丁目10-2 TEL 027-231-9531

 編集
 技研測量設計株式会社

 印刷
 朝日印刷工業株式会社

